

ハ遺囑者カ其贈遺物ノ他人ニ屬セシトヲ知了セシ旨ヲ證明スルヲ以テ足レリトセスシテ尙ホ遺囑者ノ意思ハ其相續人ヲシテ受囑者ニ贈遺物ヲ獲得セシメントノ義務ヲ負ハシメタルモノナリトノヲテ證セサル可カラサレハナリ

此事柄ニ關シテ佛蘭西法典ヲ解釋スルカ爲メ數多ノ方法ノ存在スルモノトス

其方法中充分適理ノ說ニ曰ク相續人ヲシテ贈遺物又ハ其評價額ヲ受囑者ニ獲得セシムルノ義務ヲ負擔セシメントスルニハ必ラス其遺囑書中ニ遺囑者

カ其贈遺物ハ他人ニ屬セシモノナルトヲ知了セシノ證據ヲ舉示スルヲ以テ足レリトスト例ヘハ遺囑者ニ於テ余ハポールニ屬スル所ノ甲ナル家屋ヲヒエールニ贈遺ス可シト述フル乎又唯一層簡單ニ余ハポールノ家屋ヲヒエールニ贈遺ス可シト述フルキノ如シ○此場合ニ於テ遺囑者ハポールノ家屋ヲ受囑者ニ有セシメントノ意欲ヲ充分ニ顯示セルモノナリト云フ可シ若シ然ラサレハ其贈遺ハ瘋癲人ノ所爲ニ非スシテ何ソヤ

我草案ハ斯ナル問題ヲ確定セサルヲ得ス

抑モ遺囑者其贈遺物カ第三ノ人ニ屬セシモノナリ
 シヲ知了セシ證據ヲ遺囑書ニ舉示シタルモ未ダ
 之ヲ以テ其贈遺ノ有効ナルニ足レリトセス(附言ア
 リ)尙ホ其上ニモ遺囑書中ニ遺囑者カ其相續人ヲシ
 テ受囑者ニ贈遺物ヲ獲得セシメ又ハ受囑者ニ評價
 物ヲ供セシムルノ意思アリシヲ證據ヲ顯出スル
 ヲ要セリ

附言 伊太利法典ハ(第八百三十七條)遺囑者其遺囑
 物カ他人ニ屬セシモノナルヲ知了セシ旨ヲ遺
 囑書中ニ明示スルヲ以テ充分ナリト述ヘタリ故

ニ遺囑者ニ於テハ固ヨリ其遺囑物ハ第三ノ人ニ
 屬スルモノトシテ唯之ヲ指定スルヲ以テ足レリ
 トス

斯、ル規則ヲ適用スルニ付キ裁判所ニ於テハ景狀
 ニ循ヒ尙ホ多少ノ條件ヲ希望スルモ敢テ妨ケナシ
 故ニ其贈遺シタル物件カ第三ノ人ニ屬スルモノト
 シテ指示セラレタル唯一ノ事實ハ之レヲ以テ充分
 ナリトスルコトアリ又裁判所ニ於テ遺囑者ノ意思ハ
 其相續人ノ負擔ニ歸セシメタル義務即チ其贈遺ヨ
 リ生セシ義務ノ多少明瞭ナル事ヲ認メタルニ循ヒ

或ハ右ノ事實ヲ以テ未タ充分ナリトセサルコトアリ
 此場合ニ於テハ遺囑者カ稍マ法律家ニ類スルカ又
 全ク法律ノ困難ニ無關係ナル人タルニ於テハ其贈
 遺ニ効力ヲ附スルコト一層容易ナリトス
 此事機ニ於テ法文ハ「各箇ニ定メタル物」ヲ揭示スル
 ノ注意ヲ爲セリ何トナレハ若シ量定物ニ關スル片
 ハ是レ各箇ニ定マリタルモノニ非サルカ故ニ遺囑
 者其相續財産中ニ此性質ニシテ此分量ニ於ケル物
 件ヲ遺留シ又ハ遺留セサルヤノ事ハ吾人之レヲ探
 求スルニ及ハサレハナリ又遺囑者金額ヲ贈遺セシ

片ニ於テモ該金額カ實際請取ル可キ金圓ノ領收ニ
 因リ又ハ動産、不動産ノ賣渡ニ因リ實ニ成存シ得可
 キモノナル以上ハ敢テ其相續カ此有リノ儘ニシテ
 且ツ清算シタル金額ナリトノ事ヲ顯出スルノ必要
 ナカル可シ何トナレハ遺囑者ハ其遺留財産ノ價額
 外ノ贈遺ヲ爲スコトヲ得サレハナリ
 本條ハ所有權ノ贈遺即チ完全ノ所有權ノ贈遺ヲ想
 像セリ○故ニ贈遺シタル物件カ遺囑者ニ屬セシモ
 ノナルモ其之ニ屬スルハ唯其物件ノ虛有權ノミニニ
 シテ即チ其入額所得權ハ第三ノ人ニ屬スルモノナ

ル片ハ贈遺ハ現ニ其虛有權ニ付テ効アルモノニシテ其後第三ノ人タル入額所得權者ノ死去若クハ其他法律上ノ原由ニ因リ右入額所得權ノ消滅ス可キ片ニ於テ始メテ受囑者ノ爲メニ該所得權カ其虛有權ニ復歸ス可キモノナリ

吾人ハ遺囑者カ只其己レニ屬セサル入額所得權ノミヲ贈遺スルノ場合ヲ假想セス何トナレハ入額所得權ナルモノハ其性質上畢生間ノ權利ナルカ故ニ縱令ヒ法律上右權利ノ屬スル本主ト雖ヒ之ヲ贈遺スル能ハサルモノナレハナリ○然レヒ遺囑者カ自

ラ所有權ヲ有セサル財産ノ入額所得權ヲ贈遺スルヲテ假想シ得可シ即チ己上ノ場合ニ於テ本條ノ適用アルモノニシテ贈遺ハ原則上無効タル可シト雖ヒ第二項ノ條例ハ之ヲ外ニセサル可ラサルナリ

又遺囑者カ其死去ノ日ニ於テ己レニ屬セサルモ後來ニ偶然ノ權利ヲ有スル物件ヲ贈遺スルヲ假想シ得可シ即チ例ヘハ停止未必條件ニテ獲得セシ物件ヲ贈遺セシニ遺囑者死去ノ日ニ於テ其未必條件ノ未タ成就セサル場合或ハ解除○未必條件ニテ物件ヲ讓渡セシニ尙ホ其死去前ニ其未必條件ノ成就セサ

ルノ場合ヲ假想シ得可シ○蓋シ己上ノ場合ニ於テ
 若シ他日右未必條件ニシテ虧欠ヲ爲セシキハ右物
 件ノ贈遺ハ全然無効タル可キヤ明カナリ何トナレ
 ハ該物件ノ所有權ハ遺囑者ニ屬セ[○]ス、之レカ手裏ニ
 入ラス即チ該物件ハ之レカ所屬ニ歸セサレ[○]ハ取リ
 モ直サス遺囑者ハ他人ノ物件ヲ贈遺シタルモノナ
 レハナリ○然レモ若シ停止未必條件ニシテ遺囑者
 ノ死後ニ至リテ成就スル時ハ右遺囑者ハ合意ノア
 リタル日ヨリ所有者タリシモノト見做サル可キカ
 故ニ贈遺ハ有効タル可シ○且ツ又若シ解除未必條

件カ遺囑者ノ死後ニ至リ成就スル時ハ右遺囑者ハ
 曾テ所有權ヲ失ハサリシモノト見做サレ贈遺ハ有
 効タル可キナリ

蓋シ己上ノ場合ニ於テハ未必條件ニ關スル普通原
 則ノ適用アルモノナレハ今更法律ニテ爰ニ之ヲ再
 說スルニ及ハサル可シ

彼ノ他人ニ屬スル物件ノ贈遺ニシテ有効ナル爲メ
 ニハ本條ニテ二個ノ條件ヲ要ス可シ第一 遺囑證
 書中ニ遺囑者カ贈遺物件ノ他人ニ屬スルヲ知ルノ
 證ヲ舉ケサル可カラサルヲ第二 遺囑者ハ之レト

同時ニ相續人ヲシテ受囑者ノ爲メ右物件ヲ獲得セシムルノ意欲ヲ有セサル可カラサルヲ即チ是レナリ

蓋シ遺囑者ニシテ「ボール」ノ家屋「ジャック」ノ田畑ニシテ吾人ハ其借家人、借地人ナリト云フカ如ク所有者ノ名義ヲ以テ該贈遺物件ヲ指示スルキハ前條件中其第一ノモノハ己ニ完備ス可シ○即チ是ノ如クスレハ即チ己上ノ場合ニ於テ贈遺者カ贈遺物件ノ何人ニ屬スルヲ知ルト知ラサルトヲ識別スルノ點ニ付テ訴訟ノ生スルノ恐レハ絶テ之レナカル可キナリ

其第二ノ條件ニシテ具足スルハ童ニ遺囑者カ其相續人ノ受囑者ノ爲メ贈遺物件ヲ獲得ス可キヲ明瞭ニ言ヒ顯ハシタル時而已ナラス尙ホ遺囑者カ右執行ヲ容易ニシ或ハ受囑者ニ期限ヲ指示シ或ハ受囑者ニ爲ス可キ權證ノ交付ヲ記載シテ右物件ヲ獲得セント假想シタル場合ニ於テ之レアル可キナリ

又贈遺物件ノ受囑者ニ屬スルノ場合ニ於テハ法律ハ最早二個ノ條件中只其一個即チ第一ノ條件ヲ求ムルニ止マル可ク即チ右ノ場合ニ於テハ遺囑證書

中ニ主トシテ或附従トシテ該贈遺物件ハ受囑者ニ
 屬スルモノナリトノヲ記載スルヲ以テ足レルモ
 ノニシテ是レ即チ遺囑者カ他人ノ所有權ヲ確知ス
 ル爲メ管ニ必要ナル明白ニシテ且ツ抗爭ス可ラサ
 ルノ證ト云フ可キナリ
 蓋シ己上ノ場合ニ於テ第二ノ條件ヲ求ムル所ハ最
 早之レナカル可シ何トナレハ受囑者ノ爲メ其之レ
 ニ屬スル物件ヲ獲得スルノヲハ相續人ノ爲メ別ニ
 問題ト爲ル可キヲナク即チ只相續人ノ之ヲ附與ス
 ルヲ以テ足レルモノナレハナリ

然ラハ則チ己上ノ場合ニ於テ相續人ハ所有權ノ直
 ナニ變換スル爲メ受囑者ト契約ヲ爲サ、ル可ラサ
 ルカ
 吾人ハ之ヲ可決スルニ躊躇セサル可シ○蓋シ爰ニ
 ハ爲ス可キ辨濟アルモノニシテ即チ義務ノ消滅ヲ
 行フ可キ代物辨濟アルモノトス○然レ是ノ如キ
 ハ義務ノ目的カ確定物ナル時其義務自ラニシテ直
 チニ右目的物ノ所有權移轉ヲ生セサル極メテ稀レ
 ナル場合ノ一ナル可シ
 是レ蓋シ所有權ハ附與スルノ合意即チ讓渡者ト讓

受人間ノ意欲ノ合同ニ依ルニアラサレハ直チニ移
 轉セサルニ依ルモノナリ(第三百五十一條參觀)然ル
 ニ縱令ヒ義務ノ原由カ如何ナルモノナリトモ(附言
 アリ)所有權ハ只義務ノ効力ノミニ依リテ移轉スル
 モノニアラスシテ其義務ハ合意ヨリ生シタルモノ
 ナラサル可ラス

附言 然レハ佛蘭西法ニテハ附與スルノ義務カ所
 有權ヲ移轉スルモノニシテ附與スルノ合意カ所
 有權ヲ移轉スルモノニアラスト思了スルヲ得可
 シ(第一千三百三十八條)然レハ第一千三百三十八條ノ記載

方ノ惡シキノミニテ右ノ條ハ合意ヨリ生ス可キ
 義務ノ設例ヲ言ハントセシモノタル敢テ疑ヒナ
 ルカ可キナリ

己上ニ説キ來リタル論題ハ所有權ノ受囑者ニ屬ス
 ル贈遺不動産ニ關スルノ場合ニハ最モ許多ノ利益
 アルモノニシテ即チ若シ遺囑ノミニテ受囑者ニ所
 有權ヲ移轉ス可シト決スル時ハ右移轉ニ付テハ別
 ニ登記ヲ爲スニ及ハス所有權ハ第三ノ人ニ對シテ
 移轉ノ効力アルモノニシテ即チ右所有權ハ第三ノ
 人ニ對抗シ得可キモノナリ(生存中ノ所爲ニアラサ

レハ登記セシメサル第三百六十八條ノ文意ヨリ生
 スル反對ノ論據第二冊百九十八葉參觀然レモ若シ
 相續人ト受囑者ノ間ニ讓渡ノ所爲ヲ要ス可シト決
 スルニ於テハ是レ即チ生存中ノ所爲ニシテ登記セ
 サル可カラサルノ所爲ナリトス
 已上說キ來リタル論題タル其利益最モ重大ナルモ
 ノナルカ故ニ爰ニ充分之ヲ論スルハ最モ必然ナル
 カ如シ

故ニ先ツ第三百六十九條ニ於テ法律ハ遺囑者ノ所
 屬タル不動産ノ贈遺ニ關スルキハ登記ヨリ生ス可
 キ公式ノ擔保ヲ第三ノ人ニ附與セサリシトヲ記臆
 セサル可ラス○是レ即チ佛蘭西法ノ方法ニシテ歐
 羅巴ニ於テ一般ニ採用セシモノナレハ日本ニ於テ
 モ亦採用セサル可ラスト思惟スル所ノ方法ナリ
 已上ニ說キタルトノ第一ノ理由トシテ附與セシ所
 ノモノハ(第二冊百九十八葉)若シ贈遺ニ登記ヲ要ス
 ルモノトセハ受囑者ハ其自ラ贈遺アリテ存スルヲ
 確知スルノ前ニ相續人ノ爲ス可キ不動産ノ讓渡ニ
 依リテ贈遺ヲ失スルノ危險ニ陷ルコトアルヘシトノ
 事即チ是レナリ

爰ニテハ未タ別則ノコニ關シテ説カス只生存中ノ所爲ニ關スル規則ニ付キテ論スルモノナレハ已上ノ理由ヲ附スルニ過キスト雖モ右ニ關スル確定ノ論決ヲ下サントスル時ニ於テハ未タ此理由ヲ以テ足レリト爲サ、ルナリ

然レモ受囑者ノ一切ノ保護ヲ受ク可キコニ至リテハ又毫モ疑ヒナカル可シ何トナレハ受囑者カ其己レノ爲メ遺囑アリテ存スルヲ確知セサリシトテ別ニ過失ト爲スト能ハサレハナリ

然レモ相續人ト結約セシ第三ノ人モ亦右相續人ニ

相續財産ノ一部ヲ奪去スル遺囑アリテ存スルヲ知ラサルコトアル可シ而シテ若シ右第三ノ人カ善意ニテ即チ相續人ヲ所有者ナリト思惟シテ之レト結約セシモ第三ノ人カ其毫モ知ラサルモノニシテ且ツハ受囑者ヨリハ一層其成立ヲ確知スルニ難キ遺囑ヨリ生ス可キ奪取ノ危険ニ陷キルハ右第三ノ人ノ爲メニハ實ニ迷惑ノコト云フ可キナリ

今ヤ爰ニ受囑者ノ爲メ利用ス可キ只一個ノ理由アリテ存スル而已ニシテ縱令ヒ遺囑ハ遺囑者ノ死ニ至ル迄ハ常ニ廢止ス可キモノナルカ故ニ遺囑者カ

其遺囑ヲ知ラシメストテ聊カ無理ナル所ナク又之ヲ知ラシムルハ毫モ其本文ニアラストハ雖モ右遺囑者ノ意欲ニ効力ヲ附與スルノ必要即チ是ナリ蓋シ第三ノ人カ相續財産ヲ目的トシテ相續人ト結約セントスルニハ該第三ノ人ハ極メテ思慮深ク且ツ少ナクモ奪取ノ災害ノ爲メ豫メ抵保ヲ附與セシメサル可カラス

然レモ是ノ如クスルキハ經濟上重大ナル害アル可キナリ故ニ登記ニ關スル全キ準免ヲ辨明スル爲メ前ニ提出セシ理由ノ最モ薄弱ナルニ比スレハ吾人

ノ爰ニ提供セント欲スル中間ノ方法ハ尙ホ一層強固ナルヲ覺ユルナリ蓋シ吾人ノ提供セントスル所ノモノハ全ク新説ニシテ一方ニテハ受囑者ノ利益及ヒ遺囑者ノ意欲ノ尊敬ト又他方ニテハ第三ノ人ノ利益及ヒ財産流通ノ容易ナルヲ渴望スル公ケノ便益トヲ調和セシムルノ方法ナリトス然ルニ縱令ヒ如何ナル新制ヲ爰ニ提出スルト雖モ若シ贈遺不動産ニシテ相續人ニ屬スルモノナルハ善意ヲ以テ之レト結約シ而シテ其權證ヲ登記セシメタル第三ノ人ハ受囑者ヨリ受ク可キ一切ノ取

戻ノ危険ヲ免ル可シト云フニ踴躍ス可ラサルナリ
 ○蓋シ爰ニテハ最早相續不動産ニ關シテ豫定セシ
 モノニアラス是レ死者ノ不動産ヲ贈遺スルノ場合
 ヨリハ相續不動産ヲ贈遺スルハ最モ稀レナルニ依
 ルモノニシテ即チ右ノ場合ニ於テハ普通法ヲ適用
 セザル可ラサルナリ○若シ受囑者ニシテ最初ニ相
 續人ヨリ讓渡ヲ得タル時ハ受囑者ハ自ラ其所爲ヲ
 登記セシムルニ怠ルヘカラス是他ナシ該所爲ハ全
 ク生存中ノ所爲ニ掛ルテ以テナリ○是レ蓋シ爰ニ
 ハ第三百七十條ニ設定セシ所ノ通常理論ノ適用ア

ルニ外ナラス

贈遺物件ノ人ニ屬スル場合ニ於テスラ尙ホ前ノ如
 シ况ンヤ若シ贈遺物件カ第三ノ人ニ屬スル場合ニ
 於テハ固ヨリ其決定ハ前同一ニ歸スルモノニシテ
 即チ登記ヲ爲サ、ル可カラスト決スルニ於テ毫モ
 論争ノ生スル所ナカル可キナリ○又相續人カ受囑
 者ノ名義ヲ以テ之レカ爲メニ物件ヲ買収セシ時ニ
 於テハ固ヨリ右獲得ノ所爲ハ登記セサル可ラス尙
 ホ相續人カ自己ノ名義ヲ以テ物件ヲ買収セシ時ニ
 ハ該相續人ハ先ツ右獲得ノ所爲ヲ登記セシメ次テ

其受囑者ト爲ス可キ讓渡ノ所爲ヲ登記セシメサル
可ラサルナリ○蓋シ己上ノ繁雜ハ獲得ニ關スル第
一ノ方法ニ從ヘハ之ヲ避クルヲ得ヘシ○即チ第六
百四十六條ハ右ノ意義ニ編纂シタリ

第六百四十五條 遺囑者第三ノ人ト共ニ共同所有者
タル片即チ贈遺物件ノ未分ノ共同所有者タル場合
ハ一箇特別ナル困難ヲ呈出スルモノトス何トナレ
ハ其贈遺物件ハ遺囑者ニ屬ス可キ部分ニ就テハ即
チ其遺囑者ノ物件ニシテ又同時ニ第三ノ人ノ部分
ニ就テハ即チ其人ノ物件ニ外ナケレハナリ

一見スル所ニ於テハ之レカ爲メ困難ナカル可ク即
チ受囑者ハ贈遺物件上ニ有スル遺囑者ノ權利即チ
全ク遺囑者ト同一ノ廣狹アル所ノ未分ノ權利ヲ有
スルモノナリト述フルヲ以テ足レリトスルモノ、
如シ
實ニ此論決ハ或場合ニ於テハ法文ノ論決タリト雖
モ其他ノ或ル場合ニ於テハ該論決ヲ適施スルコトヲ
得ス
是ヲ以テ豫メ一箇ノ區別ヲ爲サ、ル可カラズ其區
別トハ即チ遺囑者ノ未分ノ權利カ唯其贈遺物件上

ニ存スル場合ト又其權利ハ贈遺物カ一部ヲ爲ス所
ノ財産ノ包含上ニモ存在スル場合ト是レナリ
第一ノ場合ニ於テハ唯一個ノ論決ヲ要スルノミ即
チ受囑者ハ遺囑者ノ地位(les lieuet place)ニ代ルモノニシ
テ乃チ第三ノ人ト共同所有者トナルヲ云フ○此
置位ハ受囑者ニ於テ共同所有者タルノ約束ヲ保持
スル間ハ常ニ繼續ス可ク而シテ其共同所有者中ノ一
人ヨリ分派ヲ請求スルニ至リテハ受囑者之レニ參
加スルヲ要トス(第四十條)
斯、ル分派ニ於テハ左ノ如キ數多ノ結果ヲ生スル

トチ得可シ

第一 實際其共同所有權ノ存スル物件ヲ平等ニ分
チ以テ各自其一部ヲ有スルヲ得而シテ若シ其各部
分全ク平等ナラサレハ或ハ調和上ニテ又ハ抽籤方
法ヲ以テ其最大部分ヲ受ケタル者ヨリ其超過ノ部
分ヲ償フカ爲メ他ノ者ニ償金ヲ拂フ可シ
第二 若シ又物件ヲ分配スルニ際シ不都合ナクシ
テハ之ヲ爲シ得サルキハ其全部ヲ共同所有者中ノ
一人ニ屬スルヲ得但シ此場合ニ於テモ亦調和若
クハ抽籤方法ニ據ル可シ而シテ其物件ノ全部ヲ得タ

ル者ハ該物件評價額ノ半ハナ他ノ者ニ拂ハサルヘ
 カラス若シ又共同所有者等ノ權利平等ノモノニ非
 サルルハ右物件ノ半額ニ多少ノ増減ヲ生ス可シ
 第三 若シ又共同所有者等ハ何レモ物件ヲ在リノ
 儘ニテ受クルヲ欲セサルニ於テハ即チ調和若ク
 ハ公賣方法ニ據リ以テ其物件ヲ賣渡ス可シ而シ其
 買主ハ賣主タル共同所有者ノ各自ノ權利ニ相應ス
 ル所ノ代價ノ部分ヲ之レニ拂フ可キモノトス
 本條第一項ハ充分簡單ナル文面ニテ右ニ掲ケタル
 論決ヲ暗ニ附與セルモノナリ

又第二ノ場合ハ一層細密微妙ナルモノニシテ佛蘭
 西ニ於テハ法律ノ明文ナキカ爲メ數多ノ異說ヲ顯
 出セリ

本條第二項ニ於テハ最モ公平ナル論決ニシテ且未
 分ノ共同所有權ト分派ノ効力トニ關スル總則ヲ含
 蓄シタル論決ヲ設定セルモノナリ
 抑モ財產ノ包合トハ何ナルモノヲ稱セシヤハ吾人
 既ニ第十七條第四項ニ於テ了知スル所ナリ該財產
 包合中ニテ最モ單純ナル場合トハ即チ開始シタル
 相續ノ場合ヲ云フ其他清算中ニ於ケル會社(無形人

即チ會社ノ存在セサル時モ亦之レニ附加スルヲ得
 得○又未分財産ノ分派ヲ行ヒシ時ニハ其共同分配
 者ノ各自ハ常ニ其分配ニ因リ自己ノ得タル財産ノ
 所有權ヲ有シ又其分派ニ因リ自身外ノ共同所有者
 ニ屬セシ物件ニ付テハ毫モ權利ナキモノナリト假
 定セララル、トハ是レ吾人ノ知了スル所ナリ(佛民法
 第八百八十三條、日本草案第十五條第一項ヲ比較セ
 ヲ)

草案第十五條ノ注意ニ於テハ(第二十五號第二十六
 號)佛蘭西及ヒ其他ノ邦國ニ右ノ假○定ヲ認許セシニ

至リシ所ノ實益ノ理由ヲ説明シ且何故ニ日本ニ於
 テモ之ヲ認許スルノ同一ノ理由アルヤヲ述ヘタリ
 是ヲ以テ日本ニ於テモ分派ハ前ノ權利ヲ明○示スル
 ニ過キササルモノニシテ夫ノ羅馬法律ニ定メタルカ
 如キ新權利ヲ屬○スルモノニ非ストハ是レ吾人ノ認
 定セシ所ナリ

夫レ然リ而シテ若シ遺囑者カ其他ノ相續人ト共ニ相
 續ス可キ一箇ノ相續財産ニシテ未タ其分派ヲ爲サ
 、ルモノ、一部ヲ組成スル所ノ家屋ヲ贈遺セシ片
 ニ於テハ先ツ何故ニ前記ノ論決ヲ適用シ得サルヤ

テ説明セサル可カラス
 抑モ此場合ニ於テハ三人ノ關係ハ即チ關係人ノ三箇ノ聚集アルモノニシテ決シテ第一項ニ於ケルカ如キ二箇ノ關係人アルモノニ非サルヲ注視ス可シ○第一項ノ場合ニ於テハ遺囑者ハ受囑者ニ因テ未分ノ權利ノ代替ヲ受ケタルモノナレトモ茲ニハ其未分ノ權利ニ代リタルヲナク又縱令ヒ之レアルモ完全ニ代リタルハ毫モ之レナシ何トナレハ此場合ニ於テハ自カラ遺囑者ノ相續人一名若クハ數名アルノミナラス又一名若クハ數名ノ第三ノ人ニ

シテ其贈遺物カ一部ヲ組成スル所ノ相續ニ參與スル者アレハナリ○故ニ斯、ル相續財產ノ分派ヲ爲スニ際シ遺囑者ノ相續人及ヒ遺囑者ト共同相續人タル者ト共ニ受囑者ノ參加ヲ認許スルヲ得ス蓋シ若シ之ヲ認許スルニ於テハ相續處分中ニ一箇ノ第三ノ人即チ外人ヲ混入スルモノト云フ可シ○是ヲ以テ分派ヲ爲スニハ受囑者ヲ除キ即チ其立會ヲ要セス尙其審査ヲ受ケスシテ以テ之ヲ履行スルヲ要ス然ラサレハ吾人亦前述ノ不都合ヲ見ルニ至ル可シ○故ニ共同分派者等ハ其意欲ヲ以テ相續ノ數

種ノ財産ノ分配ヲ爲シ又ハ抽籤方法ヲ以テ之レヲ爲スコトヲ得可シ

若シ其贈遺物カ遺囑者ノ相續人ノ配當部分ニ歸シタルルルハ受囑者ハ物件ヲ其儘ニ受取ル可シ何トナレハ遺囑者ハ此物件ヲ以テ自己ノ相續人ニ之ヲ附與セントスルヨリハ寧ロ其受囑者ニ與フルコトヲ欲セシモノナレハナリ且此事タル又夫ノ分派ハ所有權ノ明^〇示^〇ナリト云フ原則ノ直接ナル適用ニ外ナキナリ

然レトモ若シ其物件カ其他ノ相續人中ノ一人(遺囑者生存セシナラハ共ニ分派ニ預ル可キ者ノ中ノ一人)ノ配當部分ニ歸スルルルハ遺囑者ハ決シテ此物件上ニ權利ヲ有セザリシモノト見做サルハ以テ受囑者ハ毫モ權利ナキモノナリト陳述セサルヘシ何トナレハ之レ受囑者ナシテ容易ニ爲スコトヲ得ヘク又發覺スルニ困難ナル所ノ詐僞ヲ受ケシムルニ至ル可シ而シテ其詐僞トハ即チ贈遺物ナシテ遺囑者ノ相續人ノ受ク可キ部分外ノ配當部分中ニ設置セシムルコト是ナリ

又受囑者ハ分派ヲ監視スルノ認許ヲ得タルモノニ

非サルヲ忘却ス可カラス故ニ其分派處分ノ爲メ
ニ受囑者ヲシテ毫モ利益ヲ有セシメス尙ホ其受ク
可キ品ニ付キ少シノ損害ヲモ得セシメサル様ニ注
意ス可シ

以上掲ケタル所ヲ以テ見レハ我カ論決ハ全ク當然
ノモノタリ即チ受囑者ハ物件ヲ其儘ニ受取ラサル
ヲ以テ乃チ物件ノ價額ヲ受取ルナリ蓋シ受囑者ハ
物件ヲ請取ルモ亦其代價ヲ受ルモ何レニシテモ左
程緊要ノトニ非サル可シト雖モ相續人ハ之レト異
ナリテ自カラ保存セシテ希望セシ親族ノ財産即

チ親愛ヲ有スル物件ナルコトアルヘキナリ
斯ク現物ノ虧欠スルカ爲メ其代價ヲ附與スルコトハ
是レ又多分遺囑者カ其受囑者ヲシテ分派ヨリ生ス
ル天運ニ係ラス一箇ノ恩惠ヲ有セシメントシタル
意思ニ適當スルモノト云フ可シ

斯ノ如キ論決ハ佛蘭西法典中或ル特別場合即チ夫
トカ自身ト其婦トノ間ニ存在スル共通財産ノ一部
ヲ組成スル物件ヲ贈遺シタル場合ニ於テ附與セシ
所ノ論決ナリトス(佛蘭西法典第四百二十三條ヲ
見ヨ)

佛蘭西ニ於テハ此條例ヲ以テ茲ニ吾人ノ從事スル
 場合ニ擴張セントスルモ是レ到底難事ナリト云ハ
 サルヲ得ス蓋シ此條例ハ特ニ夫トノ爲メニ設定セ
 ルモノト云フヲ得可ケレハナリ然レトモ日本ニ於
 テ適正ノ利益ニ満足ヲ附與ス可キ方法ヲ發見スル
 以上ハ立法者之ヲ日本ニ擴張スルモ敢テ差支非リ
 ル可シ

吾人ハ茲ニ最初ノ注目ヲ爲スヘシ其注目トハ即チ
 贈遺物カ遺囑者ノ相續人ノ配當部分ニ歸セサルニ
 因リ受囑者ハ唯其贈遺物ノ代價ノミヲ受クルモノ
 ニシテ其受取リタルモノハ完全ナル物件ノ代價ニ
 非スシテ此物件ニ付キ分派前ニ遺囑者ノ有セシ所
 ノ部分ノ代價ニ外ナシト信スルヲ得ルコト是ナリ
 實ニ遺囑者ハ開始シタル相續ニ關シテハ一部ノ權
 利即チ未分ノ權利ヲ有スルニ過キササルヲ以テ乃チ
 其相續ヲ組成セシ物件ノ各箇ニ付テモ尙其一部分
 ノ權利ノミヲ有セシモノタルニ過キササルヘシ
 然レトモ若シ其贈遺物カ全ク遺囑者ノ相續人ノ受
 ク可キ配當部分ニ歸シタル片ハ受囑者亦全ク其同
 一物ヲ有セシモノト論定スルハ是レ吾人ノ否拒ス

可キ所ニ非サルナリ由此觀之受囑者ハ物件ノ全部ニ付キ未定ノ權利ヲ有セシモノニシテ其未定事件ハ固ヨリ遺囑者ノ豫定ニ係ルモノトス故ニ遺囑者ハ反對ノ未定事件ノ生シタルルニハ受囑者ヲシテ物件ノ全部ニ等シキ價額ヲ有セシメタルモノナリト信スルハ豈ニ當然ノ事ニ非スシテ何ソヤ

第六百四十六條 第三ノ人若クハ相續人自カラニ属スル不動産ノ贈遺ノ有効ナル場合ニ於テハ相續人ヨリ受囑者ニ交付スル讓渡證書ノ登記ヲ爲スヘキモノトス

不動産ニ關スル物權ノ受囑者ト其他該權ノ讓受人トノ間ニ於ケル首位占權ヲ規定スルニ付テハ第三百七十條ヲ適用ス可シ

第六百四十七條 遺囑者ノ不動産ノ贈遺ニ係ルルハ相續人隨意ニ之カ引渡ヲ承諾シタル日ヨリ其日ヲ算入シテ十五日内ニ受囑者其登記ヲ爲ス可キモノトス

若シ相續人贈遺ニ付キ古情ヲ述フルルハ其贈遺物件引渡シ請求書ノ拔書ヲ以テ之レヲ登記簿冊へ記入シタル後ニ非サレハ其請求ヲ受理ス可カラサル

モノトス而シテ其後裁判言渡ノ相續人ニ不利ナルキ
ハ其裁判ノ控訴ヲ爲スヲ得サルモノト爲リタル日
ヨリ其日ヲ算入シテ十五日内ニ其裁判言渡ヲ簿冊
ヘ登記シ且ツ請求書ノ欄外ニ之レヲ記入ス可シ
其他ノ場合ニ於テハ相續開始ノ時ヨリ一ケ年内ニ
贈遺ヲ登記スヘシ但シ未必條件ニ因リ贈遺ノ効力
停止中ノモノナルキト雖モ亦同一ナリトス

第六百四十八條 前條ニ制定セル期限内ニ登記ナキ
ニ於テハ不動産ノ贈遺ハ該不動産上ニ物權ヲ獲得
シ而シテ第三百六十八條以下ニ照準シ又ハ先取特權

及ヒ書入質ノ事項ニ制定セル所ニ照準シ該物權ヲ
公示シタル第三ノ人ニ對抗スルヲ得サルモノトス

註解

第六百四十六條、第六百四十七條、第六百四十八條

此三條ハ不動産贈遺ノ事項ニ於ケル登記ノ事ヲ規
定スルモノナリ

其第一ノ條即チ第六百四十六條ハ不動産贈遺ノ登

記ノ事ヲ規定スルモノニシテ前二條ノ註解ニテ一般

ノ原則ニ基キ其必要ナルコトヲ説明シタリ

蓋シ佛蘭西ニ於テハ遺囑者ノ爲セシ不動産ノ贈遺

ノ登記ヲ免シタルニモ拘ラス尙ホ之ヲ補充ス可キモノトセリ

又次ノ二個條ハ遺囑者ノ不動産ニ關シテ定メタル新制ヲ掲ケタルモノトス

吾人ハ爰ニ遺囑者ノ利益ヲシテ第三ノ人ノ利益ト調和セシム可キ三個ノ方法ヲ提出ス可シ○蓋シ己上ノ方法タル各異リタル設例ニ於テ適用セラル可キモノトス

第一 爰ニテハ受囑者カ遺囑アルコトヲ確知シ其遺囑ノ執行ヲ請求セシニ相續人ハ多少速カニ右贈遺

物件ノ隨意ノ引渡ヲ爲シタルノ場合ヲ假想ス可シ○蓋シ茲ニハ受囑者ノ其贈遺ノ登記ヲ爲スヲ免スルニ何等ノ理由アリテ存スルコトナカル可シ何トナレハ受囑者カ贈遺アルヲ知ラスシテ其獲得ヲ公式ニ附セシヤ否ヤヲ恐ル、所毫モ之レナカル可ケレハナリ○然ルニ遺囑者ノ死去ト受囑者カ其贈遺上ニ爲ス可キ公式トノ間ニ於テ第三ノ人カ其贈遺アリテ存スルヲ知ラスシテ相續人ト約束シ不動産上ニ物權ヲ獲得スルノ危險ニ陷ルコトアルハ之レカ爲メ實ニ迷惑ノコト云フ可キナリ

今ヤ爰ニハ受囑者ヲシテ其贈遺ヲ登記セシムルニ
ハ如何ナル期限ヲ附與ス可キヤヲ知ルノコトアリテ
存スル而已

己上ノ場合ハ獲得者ヲシテ承諾ノ交換アリタル後
直チニ登記ヲ爲サシムル所ノ生存中ノ獲得ト大ニ
異ナル所アルヲ注意セサル可カラス○爰ニテハ受
囑者ハ後ニ其權利ヲ拒絕シ得可シト雖モ最初ニ其
之ヲ獲得スルハ知ラズシテ爲セシモノナル可キナ
リ○故ニ受囑者ハ啻ニ多少長キ期限内其己レノ爲
メ遺囑證書アリテ存スルヲ知ラサルコトアル而已ナ

ラス尙ホ其權利ノ開始アル可キ遺囑者ノ死去ヲモ
知ラサルコトアル可キナリ

然ルニ又受囑者カ其己レノ爲メ遺囑アリテ存スル
コトヲ確知シタル時ヨリ直チニ之ヲシテ強ヒテ登記
ヲ爲サシムルコトヲ得ス何トナレハ受囑者カ實ニ贈
遺アリテ存セシヲ知リシヤ否ヤノ點ニ付キテ受囑
者ト關係人タル第三ノ人トノ間ニ訴訟ノ起ルコトア
ル可ク而シテ右訴訟タル殆ト常ニ證ス可キ事實ノ
消失シタルノ後若干ノ時日ヲ經テ生ス可キモノナ
ルカ故ニ之ヲ裁判スル極メテ難キモノナレハナリ

然レ此受嘱者ノ贈遺ヲ確知シタルノ事實ノミヲ以テ未タ足レリトスルコト能ハス是レ他ナシ受嘱者ノ贈遺ヲ知リシハ其贈遺ノ存立若クハ其有効上ニ關シテ有スル妄想タルニ過キサルコトアル可キヲ以テナリ故ニ前二個何レノ場合ニ於テモ其確實ナル事實ヲ要セサル可ラス是レ法律ニテ相續人ノ爲シタル贈遺物件ノ隨意ノ引渡アルカ又ハ相續人ノ右物件ヲ引渡ス可キコトヲ命シタル裁判言渡アルニアラサレハ充分確實ナリト爲サ、ル所以ナリ

彼相續人カ一度ヒ隨意ニテ物件ノ引渡ヲ承諾シ而

シテ受嘱者カ右物件ノ占有ニ入り或ハ其占有ニ入ルノ允許ヲ得タル己上ハ十五日間ヲ期シ右證書ノ登記ヲ爲サ、ル可ラス○蓋シ右ニ關シテ定メタル期限ニハ多少長短ノ差アル可キモノトス(法律上定メタル期限ニ多少專恣ノコトアルハ常ニ免レサル所ナリ)然ルニ右ニ定メタル十五日間ノ期限ハ實際訴訟手續キニテ用キラル、所ニシテ該期限ハ長キニ過キス又短キニ失セサルモノナル如シ

蓋シ右ノ如ク云ヒタリトテ該期限起算點ノコトニ關シテ毫モ困難ノ生スルコトナシト云フニアラス故ニ

確定ノ日附ヲ有スル裁判言渡書ナキノ場合ニハ物件引渡シノ承諾アリシ確乎タル時日ノ點ニ付キ爭論ノ生スルコトアル可シ是レ他ナシ双方ノ者ハ常ニ右ニ關シテ證書ヲ調整スルコトナケレハナリ尤モ已上ノ場合ニ於テ双方ノ者ハ權利生存ノ基礎ニ付キテハ合同ス可シト雖モ相續人ハ其不動産ヲ引渡ス爲メ若干ノ延期ヲ請フコトアル可シ然レモ相續人ノ右ニ關シテ證書ヲ出スコトヲ要求シタリトテ到底已上ノ弊害ヲ醫治スルコト能ハサル可シ何トナレハ双方ノ者ハ其共同一致ヲ以テ該證書

ノ認方ヲ遲延スルヲ得可ク是ノ如クスレハ則チ第三ノ人ノ地位ヲ改良スルコトナク却テ之ヲ害スルニ至ル可ケレハナリ

即チ已上ノ困難ヲ醫セシカ爲メ次條ニ於テ獲得者タル第三ノ人ヲ奪取ス可キ受囑者ノ權利上ニ新タニ制限ヲ設ケタル所以ナリ

第二 蓋シ裁判言渡書ヲ以テ引渡ヲ得タルノ場合ハ其期限ヲ計算スル容易ナルカ故ニ一層簡易ナルノ場合ナリトス

已上ノ場合ニ於テ受囑者ハ主トシテ其必要ナル物

件ノ拔萃書ヲ以テ其請求ヲ登記若シクハ記入セサル可ラス其迄ハ右請求ハ不受理ノモノタル可シ○故ニ受嘱者ニシテ裁判所へ請求セントスルニハ其請求書ニ右記入ノ認證書セリサヒカヲ附加セサル可ラサルナリ○己ニ第三百七十二條第二項ニ於テ獲得者タル第三ノ人ヲシテ己ニ公式ニ附シタル物權奪取ノ危険ニ陷ラシム可キ裁判所へノ請求ニ關シ定メタル右ニ等シキ條例ヲ指示シタリ○蓋シ該登記ハ未ダ充分ニ贈遺ノ存在ヲ表示スルコ足ラス只受嘱者ノ其贈遺物件上ニ爲ス可キ權利ノ主張ヲ表示スルノ

ミナリト雖モ該記入ハ己ニ贈遺セシ物件ヲ目的トシテ相續人ト約束スル第三ノ人ノ危険ヲ豫防スルニ足ル可キナリ

己ニ一度終審ニテ爲シタル裁判言渡アル己上ハ受嘱者ハ其第三ノ人ニ爲セシ告知ヲ完備スル爲メ十五日間ノ期限ヲ有ス可シ

若シ始審ノ裁判言渡ニシテ控訴ニ附セラル、モハ右期限ハ控訴裁判所ニテ右控訴ノ審判アリタル日若シクハ控訴者ヨリ控訴狀ノ却下ヲ出願セシ日ヨリスルニアラサレハ起算ス可カラサルモノトス若

シ又控訴ノ手續ヲ爲サ、ル内控訴期日ノ經過セシ
 片ハ登記ノ期限ハ控訴ノ己ニ不受理ノモノトナリ
 タル日ヨリ起算ス可キモノトス

然レモ法律ハ受囑者カ大審院ヘノ上告カ判決セラ
 ル、カ又ハ却下ヒラル、迄請求書ノ欄外ニ原裁判
 言渡ノ記載ヲ爲スニ猶豫スルコトヲ允許セス是レ他
 ナシ法律ハ大審院ヘノ上告ハ裁判ノ執行ヲ停止ス
 可キモノニアラストノ原則ヲ爰ニ適用シタルニ外
 ナラサルナリ

第三 本條ニハ(第六百四十七條)ハ尙ホ他一個ノ新

制ヲ記シタリ即チ右ノ新制タル全ク一般ノ利益即
 チ財産ノ流通ト其財産ノ獲得ス可キ者ノ安寧ノ利
 益ニ關シテ定メタル所ナリ

蓋シ受囑者ハ或ハ遺囑アルヲ知ラサルカ或ハ相續
 人ノ家計ノ爲メナル其一身ニ關スル理由ニ依リテ
 其贈遺物件引渡ノ請求ヲ爲スニ遲延スルコト往々之
 レアル可キモノニシテ其局第三ノ人ヲシテ該贈遺
 不動産ニ關シテ善意ヲ以テ相續人ト約束スルノ危
 險ニ陥ラシムルニ至ルコト常ニ之レアル可キナリ
 相續人モ亦公証人ノ方又ハ一個人ノ方ニ附託シア

ル遺囑ヲ善意ニテ知ラサルコトアル可シ
 爰ニ法律ハ關係人中一人ノ利益ヲ犠牲ニスルノ必
 要ニ遭逢シ受囑者ノ利益ヲ犠牲ニシタリ○然ルニ
 或ハ相續人カ遺囑證書ヲ隱匿シタルカ或ハ遺囑証
 書ノ預リ人カ之ヲ告知セサルニ依リ受囑者ノ其己
 レノ爲メ遺囑アリテ存スルヲ知ラサル場合ニ於テ
 モ亦右受囑者カ遺囑者不注意ノ結果ヲ受ケ其損失
 ヲ己レニ負擔スルハ最モ正當ノコトナルカ如シ
 蓋シ贈遺ノ登記期限ヲ遺囑者死去ノ日ヨリ一ケ年
 間ト定メタルハ最モ理ニ適シタルモノナルカ如シ

且ツ未必條件ヲ以テ爲シタル贈遺モ登記シ得可キ
 モノナルカ故ニ縱令ヒ該未必條件ニシテ未タ成就
 セサル時ト雖モ該期限ノ起算點ハ等シク遺囑者死
 去ノ日ナル可キナリ
 受囑者ノ登記ヲ欠キタルノ結果ニ至リテハ之ヲ推
 考スル敢テ難キニアラス然レモ此ノ如キ至難ノ事
 項ヲ明瞭ニ記載スルハ最モ其宜キヲ得タルカ如シ
 蓋シ法律ハ(第六百四十八條)生存中ノ獲得ノ爲メ定
 メタル第三百六十八條ヲ爰ニ適用セリ故ニ若シ受
 囑者ニシテ已上ニ定メタル期限内ニ登記シテ法律

ニ適從シタルトハ該受囑者ハ縱令相續人ト約束シテ不動産上ニ損失ノ負擔ヲ免レタル權利ヲ獲得シタル者カ最初ニ其權利ヲ登記シタル時ト雖モ總テ右不動産上ニ權利ヲ獲得シタル者ニ對シテ其贈遺ヲ對抗シ得可シ是レ他ナシ贈遺ノ登記ハ既往ニ遡ルノ効力ヲ有スルヲ以テナリ若シ之ニ反シテ受囑者カ前記ノ條例ヲ遵守セサルトハ其權利ヲ登記スルノ前ニ登記シタル第三ノ人ノ權利ハ之ヲ受囑者ニ對抗シ得可キナリ

然ルニ後日ニ至リテ相續人カ第三ノ人ニ爲ス可キ

讓渡ヲ豫防スル爲メニハ遲滯ノ登記ヲ爲スノ利益ハ常ニ之アル可シ然レモ恐クハ受囑者ハ相續人ノ資力アル時ニ限り只相續人ニ對シテノミ賠償ヲ要ム可キ損害ヲ己ニ受ケタルモノナル可シ○即チ己上ノ場合ニ於テ相續人ハ常ニ其所爲ヨリ生シタル奪取ノ擔保人タル可キナリ

第六百四十九條 贈遺物件ハ其贈遺ノ單純ナルトハ其當然ノ附從物ト共ニ遺囑者死去ノ際ニ其物件ノ存在シタル形狀ノ儘ニテ之レヲ受囑者ニ引渡ス可シ又有期若クハ停止未必條件ヲ以テ其贈遺ヲ設ケ

アルキハ之レカ引渡ヲ請求スルヲ得ヘキ日ニ其物件ノ存在シタル形状ノ儘ニテ之レヲ受囑者ニ引渡ス可シ

遺囑者ノ該物件ニ加ヘタル改良若クハ毀損並ニ意外ノ變災若クハ抗拒シ得ヘカラサル力ヨリ生シタル改良若クハ毀損ハ受囑者ノ利益又ハ損害ニ歸ス可シ

相續人ヨリ物件ニ加ヘタル同上ノ變更ハ其相續人ト受囑者トノ間相互ニ賠償請求ノ權利アルモノトス

解除ノ未必條件ヲ以テ贈遺ヲ設ケアル場合ニ於テ其條件ノ成就スルキハ受囑者若クハ其相續人ヨリ贈遺物件ヲ在形ノ儘ニテ還附ス可シ但シ意外ノ變災若クハ抗拒シ得可カラサル力ノ結果ニ非ラサル改良若クハ毀損ニ付キ雙方間相互ニ賠償請求ノ權利アルハ格別ナリトス

第六百五十條 不動産ノ受囑者ハ受囑設定以後ニ遺囑者ノ獲得シタル土地若クハ建物該不動産ニ接比シ又ハ其益用ヲ改良スル爲メニ供シタルモノナリト雖モ之ヲ利得セサルモノトス但シ之カ爲メ更ラ

ニ遺囑條項ヲ設ケ又ハ遺囑者自カラ牆壁ヲ設ケテ該獲得物ヲ其不動産ニ附着セシメタルキハ格別ナリトス

贈遺シタル土地内ニ第三ノ人ノ爲シタル建築及ヒ植付ニシテ遺囑者ノ獲得シタルモノハ常ニ遺囑者自カラ其土地ニ之レヲ附着セシメタルモノト看做ス可シ

其他前章ニ規定シタル第三ノ人ノ附添若クハ附着物ノアル場合ニ於テモ亦タ同シ

第六百五十條 二 贈遺ノ目的タル物件ノ他へ讓渡

ハ縱令ヒ停止未必條件ヲ以テ爲シタルモノニシテ其未必條件ノ欠缺シ或ハ解除未必條件ヲ以テ爲シタルモノニシテ其未必條件ノ成就シタル時ト雖モ其贈遺ノ廢止ヲ行フ可シ但シ右二箇何レノ場合ニ於テモ遺囑者ノ意思其贈遺ノ廢止ヲシテ未必條件ノ結果如何ニ從屬セシムルニ在リタルヲ判明ナル時ハ格別ナリトス

又縱令ヒ讓渡物件ノ所有權カ買戻又ハ其他ノ原由ノ効力ニ依リ再ヒ遺囑者ノ手裏ニ歸シタル時ト雖モ贈遺ノ廢止ハ尙ホ存立ス可シ但シ承諾ノ瑕瑾ニ

基キタル無効訴權ニ依リ遺囑者ノ手裏ニ其物件ノ歸セシ時ハ此限ニ在ラス

第六百五十一條 遺囑者贈遺物件ノ全部又ハ一部ノ讓渡ヲ爲シタルキハ交換ノ方法ニ由ルキト雖モ其讓渡ハ贈遺ノ廢止ヲ行フモノトス
所有權引上若クハ財産差押ニ因ル強令ノ讓渡ニ付テモ亦同シ

若シ遺囑者贈遺物件ニ他人ノ爲メ入額所得權、使用權、賃貸權若クハ地役權ヲ設ケタルキハ受囑者其他人ニ附與シアル權利ノ執行ヲ受ク可シ但シ受囑者

ハ被讓權者ノ負擔スルコトアルヘキ定期ノ供給物ヲ受取ル權利ヲ有スルモノトス

第六百五十二條 遺囑ノ前後ニ遺囑者ノ義務又ハ第三ノ人ノ義務ノ爲メ贈遺物件ヲ書入質ト爲シタルキハ相續人其物件引渡前ニ之ヲ受ケ出スニ及ハス然レモ受囑者書入質ノ訴ヲ被リ爲メニ其物件ノ奪取ヲ受ケ又ハ義務ヲ辨償スルコトヲ要スルニ至リタルハ相續人ニ對シ擔保ノ訟求權ヲ有ス可シ

註解

第六百四十九條 遺囑ノ作爲ト物件ヲ引渡スヘキ日

詳言スレハ法文ニ復説スルノ機ヲ得タルカ如ク死去ノ日、期限ノ到着若クハ未必條件タル事柄トノ間ニ多少ノ時間經過スルコトナシトセス
 法律ハ原則トシテ相續人ハ受囑者ニ其物件ヲ當時在形ノ儘ニテ引渡ス可キ旨ヲ定ム○是ヲ以テ意外ノ變災又ハ抗拒シ得可カラサル力ヨリ生出セル増加若クハ減少受囑者ニ利益ヲ與ヘ又ハ損害ヲ加フヘキモノナリ○是レ即チ合意ニ據リ負擔シタル引渡ニ關スル普通法ヲ茲ニ適用シタルモノニ過キス

(第三百五十四條以下ヲ看ヨ)

遺囑者自カラ物件ニ加ヘタル改良若クハ毀損ニ付テモ亦タ全シ即チ贈遺ノ土地内ノ建築又ハ植付、家屋ノ修飾ノ如キ其物件ノ價格ヲ増加スルカ爲メニ爲シタル所ハ舉ク其人ノ附加ノ恩惠ト看做ス而シテ此等ノ改良タル物件ニ附着スルカ故ニ更ラニ遺囑ノ條項ヲ設ケ其恩惠ヲ述フルニ及ハス之ニ反シテ遺囑者贈遺物件ノ價格ヲ減少シタル片ハ其限度タケ其條項ヲ廢止シタルモノト看做スヘシ是レ蓋シ其争フヘカラサル權利ナリトス
 然レモ引渡前相續人ノ所爲ニ起因セル改良又ハ毀

損ニ付テハ之ト同シカラス○先ツ毀損ニ係ルルハ
 相續人原ト遺囑ヲ知ラサルノ故ニ之ヲ爲シタルノ
 善意ナルルルト雖モ猶ホ其賠償ヲ負擔スヘシ相續人
 ハ此場合ニ於テモ猶ホ其善意ノ故ニ自己ノモノト
 誤信シタル物件ヲ濫用シタルヲ宥恕スヘク其毀損
 ノ爲メニ自己ノ得タル利益ノミヲ負擔スル所ノ單
 純ナル他人ノ物件ノ占有者ニ非サルナリ蓋シ我輩
 カ茲ニ言フ所ノ相續人ハ遺囑ニテ其不知ノルト雖
 モ猶ホ義務者タラシメタルモノナリ○唯タ損害賠
 償ノ規定ニ付キ遺囑不知ノ原因多少宥恕スヘキモ

ノナルヤ否ヤヲ斟酌スヘシ
 若シ右ニ翻シテ相續人贈遺物件ニ改良ヲ加ヘタル
 片ハ受囑者ヨリ賠償セラルヘキモノトス然レ其
 賠償ハ其費用ニ非ラスシテ受囑者ノ爲メ生シタル
 利益ノミナリトス
 又若シ相續人必要若クハ保存ノ費用ヲ爲シタル片
 ハ之ニ其全部ヲ償還セシムヘシ是レ亦タ普通原則
 ノ適用ナリトス(第三百八十三條)
 又法律ハ贈遺カ解除條件附ニテ爲サレタルヲ返
 定ス若シ此際其條件成就スル片ハ贈遺ハ既往ニ溯

ヲ之ヲ毀棄ス此際ニ於テハ受囑者音ニ無名義ノ占有者タルノミナラス亦タ義務者トシテ其物件ヲ返還スヘシ

以上ノ論決ニハ反對ノ適用アリ即チ意外若クハ抗拒シ得可ラサル改良若クハ毀損ハ相續人ニ利益ヲ與ヘ又ハ損害ヲ加ヘ又受囑者ノ所爲ニ出ツル改良若クハ毀損ハ其利益又ハ其負擔タルヘキ賠償ヲ來ス

夫レ斯クノ如ク法律ニテ故ラニ普通ノ原則ヲ適用スルノ勞ヲ取ル所以ハ法律中未タ贈遺ノ設ナク而

ノ其合意トノ類似ヲ詳示スルノ可ナルト恰モ場合ニ依リ其差異ヲ詳示スルノ可ナルカ如キ故ナリ

第六百五十條 前條ニハ贈遺物件ノ價格カ或ハ意外

ノ變災若クハ抗拒シ得ヘカヲサル方ニ因リ或ハ遺囑者ノ所爲ニ因リ或ハ相續人ノ所爲ニ因リ變更増減シタルトテ仮定ス然レモ二个ノ場合共ニ其物件其全体ヲ失セス又他物ノ附加モナク又其一部ヲモ失セサルモノナリ

本條及ヒ次條ニハ終リニ説明スルカ如ク相續人ノ所爲ナク此二个ノ變更ヲ來シタル場合ヲ仮定スル

モノナリ

若シ遺囑者境界ノ規定セラレタル確定ノ不動産ヲ贈遺シタル片ハ比隣土地又ハ家屋ヲ買入或ハ其他ノ方法ヲ以テ獲得シタルノ時會以テ其恩惠ヲ増加セント欲スルヲテ証セス何ントナレハ其生キ殘ルヘキ時間ヲ察シ又ハ其相續人ノ爲メ其資産又ハ其一己ノ利潤ヲ増加セント欲シタルヲアルヘケレハナリ○唯タ泉源又ハ土砂坑又ハ小鉄鑛、小樹林等アル土地ノ如キ所有地ノ益用ヲ便利ニシ又ハ改良スルヲ得ヘキ關係アル片ハ較々疑議ヲ生スルヲアル

ヘキナリ然レモ其區別ヲ爲スハ屢々困難ナルヘク爲メニ爭議ヲ惹起スルヲアルヘキナリ是ヲ以テ其條例ヲ廣汎ニシ贈遺ハ之レカ爲メ増加セサルモノトス

然レトモ法律ハ遺囑者ノ意欲カ其發意ニ反對スル所ノ二箇ノ例外ノ場合ヲ揭示セリ○其一ノ場合ニ於テハ遺囑者ノ意欲明瞭ナルモノニシテ即チ其遺囑者贈遺ノ増加アルヲ欲セシモノナリ又其他ノ場合ニ於テハ唯推測又ハ暗黙ノ意欲アルニ過キスト雖モ發表シタル事實ノ存在スル場合ニシテ即チ

遺囑者カ牆壁ヲ用ヰテ新獲得物ヲ其贈遺物ニ附着セル場合はナリ○定トニ牆壁ハ實際接續シタル不動産ヲ集合スル唯一ノ方法タリ其適用ニ就テハ多少ノ困難ヲ生スヘシ○其困難アル場合トハ即チ例ヘハ接續シタル土地カ既ニ繞圍ノ設ケアリシハノ如シ此場合ニ於テ遺囑者ハ以前ヨリ二箇ノ所有地ヲ分割セシ所ノ繞圍ヲ取り除クヲ以テ足レリトス蓋シ斯ノ如ク爲スニ於テハ法律上欲スル所ノ合一エニライヲ設定スルモノナリ○若シ又新タル土地ニ繞圍ノ設ケアリテ舊土地ニ繞圍ナキ

ハ其場合タル最モ微妙細密ナルモノト云フヘシ蓋シ斯ナル場合ニ於テモ亦其二箇ノ所有地ノ立界ニ存スル牆壁ヲ取除クヲ以テ足レリトス然レトモ接續シタル二箇ノ家屋間又ハ別々ニ繞圍ノ設ケアリシ二箇ノ土地ノ間ニ通行門ヲ設定スルモ未タ之レヲ以テ充分ナリトセス所有地ニ爲シタル増加カ贈遺ノ土地ニ於テ遺囑者ノ設ケタル建設物又ハ植物ヨリ生スルハ毫モ疑ヒヲ容ル、所ナシ○此場合ハ最初一見スル所ニ於テハ物件ノ變更ナク其改良ヲ組成シタルモノトシ

テ乃チ前條ノ場合ニ入ルヘキモノ、如シ然レトモ若シ此等ノ建設物又ハ植物ハ第三ノ人ノ所爲ニ出テタルモノナルトキハ此者ハ若干時日間土地ノ占有者タリシモノニシテ其後遺囑者自己ノ土地ノ取戻シヲ爲シ以テ第何々條(原文箇條ヲ)ニ爲シタル區別ニ循ヒ此建設物ノ獲得ヲ要シ又ハ之ヲ欲セシモノナリ而シテ此等ノ増加ハ遺囑者ノ意欲ニ因リ附着シタルモノトシテ見做サル可シ

法律ハ他ノ附添又ハ附着ノ場合ニ送リテ爲シ以テ本條ヲ終了セリ蓋シ此等ノ場合ハ贈遺ノ増加ニ關

スル所ノ其他ノ場合ヲ呈出スルモノトス

第六百五十條

二

本條ニ規定セシ贈遺物件ノ讓渡

ヨリ生ス可キ廢止ハ特ニ遺囑者ノ意欲ノ大概ニ基キタルモノニシテ此事タル其意欲ノ實否ヲ搜索スルノ困難ヲ避ケンカ爲メ法律ニテ原則上ヨリ之ヲ推測シタルモノナリ然ルニ右ノ推測タル完全ナルモノニアラス又完全ナル可カラサルモノニシテ即チ右推測ハ反証ヲ認許セサルモノニハアラサルナリ

然レモ右讓渡ハ單純ナルモノニアラス未必條件ヲ

以テ爲シタルモノニシテ而シテ其未必條件ハ或ハ
 停止未必條件ナルヲアル可ク或ハ解除未必條件ナ
 ルヲアル可シ○是ヲ以テ若シ最初ノ場合ニ於テ其
 未必條件カ欠缺シ又次ノ場合ニ於テ其未必條件カ
 成就シタル時ハ右讓渡ハ曾テ之レナキモノト見做
 サル可シ○然ラハ則チ右讓渡アリタルカ爲メ生シ
 タル遺囑ノ廢止モ亦前ト同シク曾テ生存ヒスト決
 スルヲ得可キヤ○法律ハ其原則上爰ニテハ遺囑ヲ
 廢止セントスルノ意思ハ充分明カナルモノトセリ」
 然レモ佛蘭西法典ニテ一般ニ認許シタル而已ニテ

充分ニ之レカ説明ヲ加ヘサリシ己上ノ論決ハ時ニ
 或ハ公正ニ悖ルヲナキニアラス何トナレハ己上ノ
 論決タル正シク遺囑者ノ意思ニ反對スルヲ往々之
 レアル可ケレハナリ○是レ草案ニテハ遺囑者ノ異
 リタル意思ニシテ充分ニ顯ハレタルカ若シクハ證
 セラレタルノ場合ハ之レヲ貯存セサル可カラスト
 思惟セシ所以ナリ
 例ヘハ遺囑者カ受囑者ヲ死シタリト思惟シ得可キ
 事情アルカ故ニ此死ノ證據ニ第三ノ人エ爲シタル
 讓渡ヲ從屬セシメ即チ若シ受囑者ニシテ生存セリ

トノ證アリテ供給セラル、ニ於テハ右讓渡ハ廢止
 大可シト約權シタリト假想センニ○右ノ如キ場合
 ニ於テハ遺囑者ハ如何ナル事變アルトモ右遺囑ヲ
 廢止スルノ意ナキヤ明カナリ
 且ツ遺囑者ニシテ受囑者カ他ヨリ富裕ノ遺産ヲ得
 タル場合ニアラサレハ贈遺物件ヲ讓渡セストシタ
 ル時ニ於テモ亦前ニ同シク遺囑者ニ何等ノ事變ア
 ルモ其遺囑ヲ廢止スルノ意ナキヤ必セリ
 次ニ法律ハ贈遺物件ノ讓渡アリタルノ後右物件ノ
 所有權カ再ヒ遺囑者ノ手裏ニ歸シタル場合ヲ假想

セリ○蓋シ己上ノ場合タル遺囑者カ買戻權ヲ貯存
 シタル賣買契約中ニ存スル條約ノ故ヲ以テ若シク
 ハ右條約ニ全ク無關係ナル他ノ合意ノ故ヲ以テ右
 讓渡物件ヲ買戻シタル時ニ之レアル可キナリ
 尙ホ遺囑者ハ裁判所ニテ賣買ヲ取消シタルノ故ヲ
 以テ再ヒ右讓渡物件ヲ得ルコトアル可シ
 最初ノ場合ニ於テ贈遺ノ廢止ハ存立ス可シ何トナ
 レハ遺囑者ノ更ラニ讓渡物件ヲ獲得シタルノ事實
 ハ遺囑者ニ其贈遺ヲ復スルノ意思アリシヲ證スル
 ニ足ラザレハナリ

又次ノ場合ニ於テハ法律ニテ之レカ區別ヲ設ケリ
 故ニ若シ讓渡ニシテ無能力ノ爲メ取消シト爲リタ
 ル時ハ廢止ハ尙ホ存立ス可シ何トナレハ廢止スル
 ノ能力ハ讓渡スルノ能力ノ存セサル場合ニテモ尙
 ホ存シ得可キモノナレハナリ例ヘハ幼者又ハ結婚
 シタル婦女ノ贈遺ヲ廢止シタル場合ノ如キ即チ是
 ナリ然レモ讓渡ノ取消アル可キ禁治産ノ場合ニ於
 テ其讓渡ノ取消ハ同時ニ贈遺廢止ノ取消ヲ生ス可
 シトノトハ認許シ得可カラス

若シ又例ヘハ強迫ノ如キ承諾ノ瑕瑾アリタル爲メ

右取消ノ生シタル時ハ廢止モ亦等シク取消サル、
 ヲ以テ正當ナリトス何トナレハ遺囑者ハ讓渡ヲ欲
 セサルト等シク贈遺ヲ廢止スルノ意モ之レナキモ
 ノナレハナリ
 蓋シ錯誤又ハ詐欺ノ場合ニ於テハ前ノ如ク論スル
 ヲ得サルトアル可シ然レモ廢止ハ讓渡ト等シク其
 効力ヲ失ス可キノ場合之レアルカ故ニ取消ノ効力
 ヲ區別セスシテ右難論ヲ遠ケタルハ法律ノ最モ妙
 功ナル所ナリ
 故ニ讓渡物件ノ獲得者ニシテ詐欺ノ手段ヲ以テ受

囑者ハ遺囑者ニ對シ過失アルモノナレハ贈遺ヲ爲ス可キモノニアラサルヲ或ハ受囑者ハ他ヨリ富裕ノ遺産ヲ相續セシト或ハ受囑者ハ遺囑者ニ先チテ死セシトヲ遺囑者ニ就附ケ此ノ原由ニ依リテ贈遺財産ノ賣買又ハ贈與ヲ承諾セシメタル時ニハ縱令遺囑者ニシテ右賣買又ハ贈與ヲ取消サシメタリト雖也贈遺ノ廢止ヲシテ存立セシムルハ決シテ正當ノトニアラサルナリ

法律ハ讓渡ノ根本ヨリ無効ナル場合ヲ決定スルニ及ハスト信シタリ○其場合タル有償名義ノ讓渡ニ付テハ稀ナルベシ蓋シ有償名義ノ讓渡ニテハ承諾虧缺ノ爲メニ非スノハ無効トナルモノニ非ラサルナリ○若シ遺囑者ニ於テ外顯上承諾アルカ如キモ其實之レ無キハ其讓渡ヲ承諾セサリシナレハ廢止モ亦之ヲ承諾セサリシモノナルヤ明カナリ○又獲得者ノ方ニテ承諾ナキモ亦タ讓渡ノ處置アリシニ非ラサレハ前同様決定セサル可カラス○否ラスシテ遺囑者廢止ノ意アリシヲ以テ足レリトスト言フハ第三ノ人ニ爲シタル單純ナル賣却ノ發言ノ如キ其他暗ニ此意欲アルヲ示ス一切ノ處置ニ付

テモ亦タ廢止ヲ許容セサルヘカラス是レ維持シ難
キ所ノ事ナリ

又當初生存中ノ贈與ヲ以テセントシタリシ讓渡ニ
關スル片ハ法式ノ瑕瑾ノ爲メ根本ヨリ無効ノモノ
ト假定スルコ容易ナルヘシ○此場合ニ於テハ廢止
ヲ維持スヘシト主張スルコ一層容易ナリト雖凡我
輩ハ之ヲ採可セス即チ其無効ハ全部且ツ不可分タ
ルヘキモノナリ蓋シ遺囑者ハ其遺囑ヲ廢止シ及ヒ
與フルノ二个ノ別異ナル事ヲ爲サント欲シタルモ
ノニ非ラス與フルト共ニ廢止セント欲セシモノナ

リ然ルニ遺囑者ハ與ヘタルニ非サルヲ以テ亦タ廢
止シタルニモ非ラサルナリ

第六百五十一條 遺囑者贈遺ヲ廢止スル能力アル間

ハ其死去ノ日ニ至ル迄之ヲ爲シ得可キモノニシテ
即チ是レ贈遺ノ本質ト謂ツ可キモノナリ
斯ノ如キ廢止ニハ明瞭ナルモノアリ又暗黙ナルモ
ノナリ

明瞭又ハ暗黙ノ廢止ノ場合ハ遺囑ノ基因ト其法式
トニ係ル一般ノ規則ト共ニ第二部ニ於テ之ヲ説明
ス可シ

然レモ茲ニ當然其地位ヲ占ム可キ暗黙ノ廢止ノ場
合アリ何ソヤ曰ク其贈遺シタル物件ノ讓渡ノ場合
是ナリ

若シ其讓渡カ生存中ノ贈與ニ依リ無償ノモノタル
片ハ遺囑者ハ其受囑者ヨリ寧ロ其受贈者ヲ撰擇シ
タルヤ明カナリ

茲ニ吾人ハ他ノ受囑者ノ爲メニ新タナル遺囑アル
コトヲ想像セズ蓋シ斯々ル新遺囑ハ第一ノ贈遺ノ廢
止ヲ惹起スルコト明カナレハナリ然レトモ斯々ル所
爲ハ之ヲ讓渡シト云フ可カラス何トナレハ遺囑者

ハ現存ノ權利ヲ其受囑者ニ屬セサルヲ以テ乃チ其
生存中ニ於テ讓渡ヲ爲サレハナリ
賣賣若シクハ交換ノ如キ有償名義ノ讓渡ニ於テハ
多少ノ疑ヒヲ懷クヲ得可シ何トナレハ右ノ場合ニ
於テ遺囑者ハ其家産中ニテ他ノ物件ヲ以テ遺囑物
件ニ置キ換ヘタルモノナレハナリ然レモ遺囑者ノ
意思ヲ推廣ムルコトナクシテ右新價額上ニ贈遺ヲ維
持スルコト能ハス故ニ賣買ノ場合ニ於テ遺囑者ハ他
ノ需用ノ爲メ右代價ヲ使用シ又ハ振り當ツルヲ得
可ク又交換ノ場合ニ於テ遺囑者ハ貨幣又ハ其他ノ

補助物ヲ以テ讓渡物件ト獲得物件トノ平均ヲ完全
 スルノ義務ヲ負擔スルコトアル可シ
 尤モ前ノ場合ニ於テ贈遺ニ効力ヲ與フル爲メニハ
 更ラニ遺囑者ノ意欲ノ發表ヲ要求スルハ一層確實
 ノコトナル可キナリ
 蓋シ右ニ關シ眞ニ疑ノ生ス可キハ第二項ノ場合ニ
 シテ讓渡ハ意欲ヨリ生セスシテ強令ヨリ生シタル
 ノ場合即チ是レナリ○法律ハ右ニ關シ常ニ顯出シ
 得可キ只二個ノ場合ヲ爰ニ指示スルニ過キス即チ
 公益ノ原由ノ爲メ所有權ノ引上并ニ差押ノ爲メ所

有權引上ノ場合是ナリトス
 最初ノ場合ニ於テハ讓渡物件ハ最早遺囑者ノ家産
 中ニ存セスシテ實ニ該物件ハ新タニ金額ヲ以テ置
 換ヘタルモノナリ然レモ受囑者ニシテ右新價額上
 ニ其權利ヲ主張スル爲メニハ更ラニ遺囑者ノ意欲
 ノ發表ヲ要求スルハ賣買ノ場合ト同一ノ理由ニ依
 リテ然ルナリ
 又次ノ場合ニ於テハ右對價上ニ贈遺ノ有効ナリヤ
 否ヤノ點ニ付キ論題ヲ設ク可キ余地僅カナル可シ
 何トナレハ遺囑者ハ差押ヘラレタル物件ノ對價ト

シテハ其負債ノ全部若シクハ一部ノ放釋ニアラサレハ得ルヲ能ハス且ツハ受囑者カ右對價上ニ其權利ヲ主張スルニハ遺囑者ノ意思ヲ擴張スルニアラサレハ能ハサル可ケレハナリ

且ツ差押ハ義務者ノ多少確實ナル無資力ヲ假想セシム可ク而シテ又縱令ヒ遺囑者ニシテ他日豪富ノ地位ニ復スト雖モ贈遺ニ効力ヲ有セシムル爲メニハ無資力ノ場合ニ於テハ尙ホ他ノ障害アリテ存スルモノニシテ何人タリトモ自ラ釋放セラレスシテ他へ釋放ヲ爲シ得可カラス (*nemo liberatus nisi liberatur*) トノ

法律上ノ格言卽チ是レナリ

且ツ第三項ハ所有權ノ全部若シクハ一部ノ讓渡ヲ豫定スルモノニアラスシテ所有權ノ支分ニアラサレハ構成セサル物件ノ讓渡ヲ豫定スルモノトス

蓋シ已上二個ノ場合ハ其基礎上同一ノ原則ニ適從ス可キモノナレハ受囑者ハ固ヨリ己ニ許與セラレタル權利ヲ遵守セサル可ラス故ニ右ノ點ニ付テハ贈遺ハ其己ニ許與セラレタル權利ノ限度ニ從フテ廢止セラル可キナリ然レモ其第一ノ差異ハ已ニ許與セラレタル權利繼續ノ長短ノ點ニ存スルモノニ

シテ即チ該權利ハ概テ一時或ハ畢生間ノモノニシテ即チ確定シタル時期ニ制限セラレタルモノナルカ故ニ右期限ヲ經過スレハ所有權ノ全體ヲ得可シト雖モ只地役權ノ場合ノミニ於テ所有權ハ永遠ニ之ヲ負擔セサル可ラサルナリ且ツ其他對價ノ事項ニ關シテハ前同一ノ論決ハ最早適用シ得可キモノアラス故ニ遺囑者ニシテ已ニ許與シタル物件ノ代價又ハ對價トシテ定期ノ供給ヲ約權シタル己上ハ爰ニテハ右遺囑者カ受囑者ヲシテ右對價ヲ保存セシメント欲セシトノ證ハ充分之レアル可キナリ

若シ讓渡ニシテ金額ニテ一回ニ代價ヲ辨濟シタルカ爲メ完全ナルモノナル時ハ受囑者ハ最早讓渡物件上ニ何等ノ權利ヲモ有セサルカ故ニ固ヨリ右代價ニモ何等ノ權利ヲモ有セスト雖モ若シ讓渡物件カ受囑者ノ所有權内ニ存シ而シテ受囑者ニシテ其權利ノ減殺ヲ受クル時ハ受囑者ノ右減殺ヲ受クルハ羅馬法學者カ右ニ等シキ場合ニ於テ (cum sua causa) ト稱セシ其地位ヲ以テ只其儘ニテ之レヲ受クルニ止マル可シ

本條法文ノ論決ハ贈遺物件ノ賃貸ノ場合ノ爲メ掲

ケタルモノナリト雖モ尙ホ遺囑者ノ構成セル其他ノ物權ヲモ爰ニ合セ説クハ最モ其宜キヲ得タルモノ、如シ

法律ハ現ニ吾人ノ説ク所ノ物權ノ構成ハ遺囑ノ許與アリタル時ヨリ存スルヲテ假想セリ○然ラハ則チ若シ物件ヲ贈遺セシ時右物件ハ己ニ入額所得權又ハ賃貸ヲ負擔シタルモノナル時ハ受囑者ハ遺囑者ノ約權シ得可キ對價上ニハ何等ノ權利ヲモ有セサル可シ何トナレハ該遺囑者ハ己ニ己上ノ諸義務ヲ負擔シタル物件ヲ贈遺シタルカ故ニ即チ在形ノ

儘右物件ヲ贈遺シタルモノニシテ己ニ其家産中ニ存スル供給ノ債主權ヲモ右物件ニ附屬シテ之ヲ贈遺セントノ意ナキヤ明カナレハナリ

第六百五十二條 本條ニ規定セル場合ハ遺囑者ノ贈遺物件上ニ物權ヲ設定シタル場合ナリ然レモ亦タ爲メニ特殊ノ條例ヲ設クルニ足ルモノナリ蓋シ書入質若クハ動産質ハ未タ必スシモ所有權ノ減少ヲ來スモノニ非ラス此抵保ハ常ニ多少未必條件ノ性質ヲ帶フルモノニシテ義務者其義務ヲ辨濟セス又ハ第三ノ掌握者即チ此處ニテハ受囑者自己ノ爲メ

義務ヲ辨濟セサル片ハ所有者ヲシテ強令ノ賣却ニ依リ引上、奪取ヲ受クルノ義務ヲ負ハシムルモノナリ○是故ニ遺囑者、不動産ヲ書入質ニシ又ハ贈遺物件ヲ共權利者ニ動産質トシテ與ヘタルノ一事ヲ以テ贈遺ヲ廢止スルノ意思アルモノト看做ス可カラス必スヤ遺囑者ハ其義務ヲ辨濟スルヲ得ヘシト企望セシナルヘシ○此點ニ付キ法律ニハ明カニ、其抵保ノ設定カ遺囑前ニ在ルト後ニ在ルトヲ區別スルニ及ハサル旨ヲ述フ是レ前條ノ場合ト重大ナル差異ヲ爲ス所ナリ

凡ソ物件カ斯クノ如ク物上ノ抵保トシテ債主權ニ附セラレタルトハ受囑者ハ債主ノ權利ヨリ生スル奪取ヲ被ムルコトアルヘシ而シテ受囑者ハ相續人ニ於テ權利者ニ關係ヲ脱セシメ物件ヲ受出スヘキコトヲ請求スル能ハス○然レモ受囑者實際此奪取ヲ受ケタルト義務ヲ辨濟シテ奪取ヲ免カレタルトニ拘ハラス其擔保ノ訟求詳言スレハ相續人又ハ其他其負債ノ義務者ニ對シ賠償ヲ求ムルノ權アリトス蓋シ權利者其書入質ノ訴權若クハ動産質賣却ノ權ヲ使用スルト否トニ從ヒ受囑者ノ位置ヲ卑惡ニシ

又ハ好良ニスルヲ難カルヘキナリ然ルニ權利者他ノ方法ニ依リ辨濟ヲ受ケタルナレハ相續人他ノ財産上辨濟シタル所ノ相續負債ノ高ヲ受囑者ヨリ償還センヲチ請求スルヲ能ハサルヤ必然ナリ
以上ノ道理ノ要領タル各箇ノ受囑者ハ相續ノ負債ヲ償却スルニ及ハスト云フニ在リ

第十章 無名ノ合意及ヒ契約ノ事

第六百五十三條 法律ヲ以テ次章ニ其規則及ヒ効力ヲ規定シアル合意及ヒ契約ノ外尙ホ各人ハ所有權又ハ其支分權ヲ移轉シ、變更シ若クハ消滅スル爲メ

或ハ人權又ハ義務ヲ創設シ、變更シ若シクハ消滅スル爲メ適宜ノ合意又ハ契約ヲ爲スヲ得可シ但シ已上何レノ場合ニ於テモ右合意若シクハ契約ハ公ケノ秩序并ニ善良ナル習慣ニ背反セサルモノナルヲ要ス

此(無名)ト稱スル已上ノ合意若シクハ契約ハ第二編第二部ノ條例及ヒ有名契約ニシテ夫レト相ヒ類似スルモノ、條例ニ支配セラル可キモノトス

註解

第六百五十三條 本條ハ只原則トシ且ツハ第十一章

乃至第二十二章ノ目的タル可キ有名契約ノ反對トシテ爰ニ掲クルニ過キサルナリ
 契約ニ於ケル有名ト無名ノ區別ハ契約ノ一般ノ區別ニ於テ己ニ指示シ(第三百二十四條)且ツ序ヲ以テ己上二種ノ契約ニ關スル規則ハ何ノ所ニ掲ク可キモノナルヤノトヲモ説明シタルモノナリ○然レモ無名契約ハ只タ義務ノ本源若シクハ原由トシテ之ヲ指定スルニ過キサルナリ何トナレハ該契約タル爰ニテハ漠然タル目的ヲ有スルモノニシテ第二編ニ入ル可キモノナルト等シク又第三編ノ範圍内ニ

モ屬ス可キモノダレハナリ

第十一章 生存中ノ贈與

緒論

生存中ノ贈與ヲ爰ニ記セシハ只ダ有名契約ノ第一ノモノトシテ掲ケタルニ過キス蓋シ之ヲ爰ニ掲ケシハ該契約ノ最モ許多ナルノ故ニアラスシテ只之テ外ニシテ殆ト他一切ノ契約ハ有償ノモノタルモ該契約獨リ無償ノモノナルニ因ルモノナリ
 贈與ヲ爰ニ掲ケシ今一個ノ理由ハ其遺囑ト相似タル所即チ是ナリ若シ之レナシトセン乎贈與ハ第二

十二章ニ於テ規定セサル可ラサルモノトス○是ヲ以テ贈與ハ多少遺囑ト類似スル所アリト雖モ若シ其比較ノ言語ニシテ其當テ得タルルハ其差異ハ又之レテ熟知スル敢テ難キニアラサルナリ
蓋シ遺囑即チ特定名義ノ贈遺ニ付テハ只其贈與ニテ供與スル所ノ權利ノ性質ヲ説クノミ故ニ其他許多ノ贈與ニ關スル理論ハ本編第二部ニ送リテ之ヲ論ス可シ(第六百五十八條參觀)

第六百五十四條 生存中ノ贈與トハ贈與者ヨリ無償ニテ即チ對價額ヲ受ケヌシテ受贈者ニシテ之ヲ承

諾スル者ニ物權若クハ人權ヲ供與スルノ合意ナリ
其他贈與者ニ於テ受贈者ノ物件上ニ有スル物權又ハ之レニ對シテ有スル人權ノ釋放即チ無償ノ拋棄ニ右贈與ノ成立スルトモ亦アル可シ

第六百五十五條 贈與ハ單純ナルト期限ヲ以テ爲ス
ト又ハ未必條件ヲ以テ爲ストアル可シ然レモ右未必條件ハ其停止ナルト解除ナルトヲ問ハス贈與者ノ方ノ純然隨意ニ係ルモノタル可ラス但シ此規則ニ背クルハ其贈與ハ無効タル可シ
贈與者又ハ其相續人ニ於テ法律上允許シタル原由

アルニ非ラサレハ贈與ヲ廢止スルヲ得サルモノトス

第六百五十六條 他人ニ属スル物件又ハ權利ヲ以テ生存中ノ贈與ノ目的トシタルキハ縱令ヒ其物件若クハ權利ハ推測相續人ニ属スルモノナル時ト雖モ該贈與ハ無効タルヘシ但シ以上ノ場合ニハ贈與者ニ於テ右物件ノ他人ニ属スル旨ヲ知り居タルヲ明言シタルト否トヲ區別スルニ及ハス
贈與者ハ受贈者ノ受ケタル奪取ノ擔保人タラス但シ其贈與已後ニ係ル贈與者一身ノ所爲ヨリ生シタ

ル奪取ハ此限ニ在ラス

註解

第六百五十四條 法律ハ爰ニ贈與ヲ説クニ際シ先ツ其義解ヨリ始メテ曰ク贈與ハ其性質遺囑ト異ナリ合意即チ意欲ノ合同ナリト○己ニ贈遺ノ事項ニ於テ論シタルカ如ク固ヨリ一個人タル者其意思ノ如何ニ拘ラス受囑者ト爲ルヲ能ハサル可シ然ルニ贈遺ハ受囑者ノ承諾アルノ前ニ己ニ存立ス可キモノニシテ即チ受囑者ハ後ニ拒絕シ得ルモ一旦ハ知ラズシテ贈遺物件上ニ權利ヲ獲得ス可シ之ニ反シテ

贈與ハ受囑者之ヲ受クルノ意アルニアラサレハ贈
 與物件上ニ權利ヲ獲得スルコトナシ是ヲ以テ其承諾
 タル贈與証書ノ成立自ラニモ必要ナル可キナリ○
 佛蘭西ニ於テ法律ハ明言ノ承諾ヲ要求セルカ如シ
 (第八百九十四條)然レモ是レ恐クハ要求ニ過キタル
 モノナル可シ何トナレハ承諾ヲ爲スニ只受贈者ノ
 手署ニテ足ル可ケレハナリ○本條ノ法文ハ承諾ヲ
 要求シタリト雖モ別段右ニ關シテ詳定シタル所ナ
 シ故ニ若シ右承諾ニ一層明確ナル性質ヲ附ス可キ
 モノト決スルニ於テハ贈與ノ法式ヲ規定スルニ當

リ之ヲ説明スルヲ缺カサル可キナリ
 蓋シ法律ハ贈與ノ義解ニテ贈與トハ無償ノ利益ヲ
 供與スルモノト云ヒ尙ホ未タ之ニテ不確實ナル所
 アランヤヲ恐レ他ノ言辭ヲ以テ之ヲ解說シ(對價ヲ
 受ケスシテ)利益ヲ供與スルモノナリト云ヘリ
 本條ノ正文ニ於テ贈與者ヨリ受贈者ニ附與シ得可
 キ數種ノ便益ヲ揭示スルノ注意ヲ爲セリ而シテ其便
 益トハ即チ左ノ如シ
 第一 自己固有ノ物上ニ存スル物權、所有權、入額所
 得權、使用權、地役

第二 贈與者カ義務者トナリ受贈者カ權利者トナル所ノ人權即チ債主權

第三 贈與者受贈者ノ物上ニ有スル入額所得權、使用權又ハ地役ノ如キ物權ノ釋放即チ放棄

第四 贈與者受贈者ニ對シテ有スル債主權ノ釋放但シ受贈者ハ其釋放ヲ得タルニ因リ其義務ヲ免除セララル、モノトス

第一ノ場合即チ各箇ニ定マリタル物即チ確定物ノ所有權ト種類物即チ量定物ノ所有權トノ間ニ於テ既ニ爲シタル區別及ヒ第二ノ場合ニ於テハ爲スノ

義務ト爲サ、ルノ義務トノ間ニ於ケル前述ノ區別ニ付テハ法律上再ヒ之ヲ開陳スルノ要ナシ蓋シ此等ノ區別ハ贈遺ノ事項ニ於テ再出スルノ必要アル可キモ一箇ノ合意ニ關スルルハ之レカ爲メ疑國ヲ生ス可キモノニ非サル可シ

第六百五十五條 法律上贈與ハ權利ノ通常ノ體様ニ服從セララル可キモノナリト說述スルノ緊要アリト信セリ即チ先ツ贈與ハ權利ノ發生ヲモ尙ホ權利ノ請求ヲモ遲延セサル所ノ體態ニ服從ス可シ而シ此場合ハ贈與カ單純ナリト稱スル場合ナリ第二ニハ

贈與ハ權利ノ發生ヲ遲延セサルモ唯其請求ノ時ヲ
 遲延スル所ノ期限ニ服従スルヲ得但シ所有權(完
 全ノ所有權又ハ虛有權)ノミハ其性質上ヨリ起[○]始[○]
イニシアブル
 (in)ノ期限モ尙ホ了[○]終[○](in quantum)ノ期限ヲモ許容セサル
 可キトテ遵守ス可シ蓋シ此等ノ事ハ既ニ第三十一
 條第五十五號ニ於テ説明セル所ナリ又第三ニハ贈
 與ハ未必條件ニ服従スルヲ得而シテ其條件カ停止ス
 可キモノニ關スルキハ權利ノ發生モ尙ホ其請求ノ
 時ヲモ等シク遲延ス可ク又解除ノ未必條件ニ關ス
 ル片ハ權利ノ確定及ヒ其廢棄ス可カラザル事ヲ遲

延ス可シ而シテ其未必條件ノ停止ス可キモノナルト
 解除ス可キモノナルトヲ問ハス其條件ハ權利ノ存
 在[○]即チ其固定ニ一箇ノ遲延ヲ附スル而已トラス尙
 ホ殊ニ其各條件ニ不確定ノ事ヲモ附着ス可キヲ注
 目ス可シ何トナレハ凡テ未必條件ノ附着シタル權
 利ハ幾分ノ偶生[○]即チ偶事[○]ニ關スルモノヲ有スレハ
 ナリ○法律上允許セサル事柄トハ即チ停止又ハ解
 除未必條件カ贈與者ノ「唯一ノ意欲」ニ係ルヲ云フ
 是ヲ以テ常ニ一箇ノ偶事アルヲ要トス
 佛蘭西ニ於テハ法律文面ハ(第九百四十四條)殆ント

我方正條ト同一ナルモ歴史上ノ理由ヲ採リ以テ贈與ニ未必條件ヲ附シタルキハ必ラス偶事ヲ要スルト雖モ該條件ノ成就ト棄却トハ之レヲ其贈與者ノ唯一ノ意欲ニ歸シ以テ其贈與ヲ無効ノモノト爲セリ○然レモ此論決ハ嚴格ニ過クルモノ、如シ故ニ吾人ハ贈與カ贈與者ノ純乎タル專态ニ出テサル以上ハ之レニ効力ヲ附スルヲ以テ優レリトセリ斯ク決定シタリト雖モ之レカ爲メ贈與ハ二三ノ例外原由ニ據リ廢棄セラル可キモノニ非スト斷言スルヲ得ス○吾人ハ既ニ第二編ニ於テ受贈者ノ忘

恩アルコ因レル廢止ノ事ヲ揭示スルノ機會ヲ有セリ○佛蘭西法典ハ右廢止ニ係ル所ノ他ノ二原由ヲ認許セリ即チ受贈者ニ負ハシメタル責任ノ不執行及ヒ贈與者贈與ノキニ兒子ヲ有セスシテ其後兒子ノ出產アリタルト是ナリ○日本ニ於テハ右ニ掲ケタル三箇ノ廢止原由ノ中其最終ノ原由ニ至リテハ之ヲ認許スルニ付キ躊躇スル者アルヲ得可シ然レトモ第一及ヒ殊更第二ノ原由ノ認許セラル可キ事ハ敢テ疑フ可キニ非サルナリ凡テ此等ノ廢棄原由ハ包含財産ノ贈與ニモ亦特定

名義ノ贈與ニモ普通ノモノナルカ故ニ乃チ本篇第
二部ニ於テ之レヲ揭示ス可シ

第六百五十六條 嚴ニ論究スレハ一般ノ原則ニ於テ
ハ他人ノ物件ノ贈與ヲ無効ナリト明言スルヲ以テ
充分ナル可シ何トナレハ既ニ第三百二十五條ニ於
テ凡テ合意ハ關係人ノ處分權内ニ存スル事物ヲ目
的トスルニ非サレハ其成立ナシ即チ組成スルモノ
ニ非スト陳述シタレハナリ○又他人ノ物件ノ贈遺
ハ或ル場合ニ於テ之ヲ相續人ノ責任トシテ効アル
可ク且其相續人ノ物件ノ贈遺ニ至リテハ尙ホ一層

容易ニ之レニ其効力ヲ有セシメタルヲ以テ茲ニハ
之レト異ナル所ノ論決ヲ說述スルノ優レルニ如カ
サル可シ何ントナレハ茲ニハ相續人ノ參加セサル
ヲ以テ贈與者カ其相續人ヲシテ受贈者ニ對スル義
務ヲ負擔セシメントスル場合ヲ探求スルヲ得サ
レハナリ、茲ニハ獨リ其贈與者ノミ義務ヲ負フ可キ
モノニシテ若シ其恩惠ヲ與ヘント欲スル者ニ他人
ノ物件ヲ附與セントスルニ付キ贈與者自カラ其物
件獲得ノ任ヲ負擔スルヲ欲セシルニハ自己ノ意
欲ヲ以テ先ツ其物件ノ獲得ヲ爲ス可キ者ナルヤ明

カナリ

然レモ若シ其贈與者カ受贈者ノ爲メニ他人ニ屬スル所ノ物件ヲ獲得ス可シト明瞭ニ約束シタル事ヲ想像スルモハ則チ其贈與ヲ以テ爲スノ義務ト觀察スルニ差支ナシ

又他人ノ物件ノ賣買ニ關スルモ是レ亦等シク無効ナリトス(次章ヲ見ヨ)而シテ斯レ無効ハ買主ヨリ賣主ニ對スル夫ノ擔保ノ請求又ハ償金請求ノ理由トナリ且其原則トナル可キヲ見ル可シ○實ニ賣主ハ適正ノ原由ナクシテ物件ノ代價ヲ受取リ又ハ其

代價ハ未タ受ケサルモ之ヲ受ク可キノ約束ヲ爲シタルトアル可シ故ニ賣主ハ適正ニ獲得セサル利益又ハ權利ヲ保存スルヲ得ス○加之賣主ハ契約ニ因リ利潤ヲ計リタル者ナレハ他ノ結約者ニ一箇ノ利益ヲ得セシメントシタルモヨリハ幾分カ保護ヲ受クルト少ナカル可キモノトス贈與者ノ地位ハ之レト全ク反スルモノトス即チ贈與者ハ對價ヲ受ケス且之レニ對價ヲ附與ス可キヲナシ而シテ贈與者ハ自己ノ爲メニ利益ヲ計リタル者ニ非スシテ受贈者ノ爲メニ利益ヲ得セシムルヲ希望セシ者ナリ

是ヲ以テ受贈者ノ受ク可キ奪取ヨリ來タル所ノ利益ノ虧缺ニ付キ贈與者ヲシテ受贈者ニ對シ賠償ヲ拂ハシムルハ正當ノ事ニ非サルナリ

若シ受贈者其贈與物上ニ自カラ費用ヲ掛ケ以テ其價額ヲ増加セシキハ其物件ノ奪取ノ際ニハ眞ノ所有者ヨリ賠償ヲ受ク可シ何トナレハ該所有者ハ他人ノ損害ニ於テ自ヲ利得ヲ獲ルコト能ハサレハナリ但シ受贈者自カラ出費シタルモ其賠償ヲ受クルトナ得ル唯一ノ費用トハ即チ純然タル快樂アグレメン又ハ奢侈ノ爲メニ費ヤシタルモノ是レナリ

贈與者適正ノ權利ヲ受贈者ニ附與シタル後チ其權利ノ奪取ヲ加ヘタル者ハ即チ該贈與者ナル場合ニ於テハ法律上之レヲ以テ一箇ノ例外場合ト爲サ、ルヲ得ス

最初一見スルニ於テハ贈與者カ受贈者ニ附與セシ權利ヲ再ヒ奪取シ得ルニ付キ人或之ヲ會得スルノ困難ヲ有スルトアルヘシ○然レモ凡テ登記ノ方法ヲ設ケタル制法中ニ於テハ此場合ハ充分單純ナルモノナリ

例ヘハ現實ニ贈與者ニ屬スル不動産ノ贈與アリタ

ルニ際シ其受贈者登記ヲ怠タリテ爲サ、ルコトアル
 可シ此場合ニ於テ惡意ノ贈與者又ハ其相續人ニシ
 テ該贈與アリタルヲ知リ又ハ知ラスシテ該物件ヲ
 第三ノ人ニ讓渡シ而シテ第三ノ人ハ最初ニ登記シ
 タリトセン然ルモハ受贈者ハ奪取セラル可キナリ」
 此場合ニ於テ受贈者ハ擔保ニ於ケル權利卽チ贈與
 物ノ價格及ヒ總テ其他ノ賠償ニ權利ヲ有ス可シ○
 斯ク權利ヲ有スルニ付テハ左ノ二箇ノ理由アリ第
 一 贈與者又ハ其相續人ハ此第二ノ讓渡ヲ實行セ
 シニ因リ受贈者ノ損害ニ於テ不適正ノ利益ヲ有ス

可シ第二 贈與者又ハ相續人ハ受贈者ニ不正當ノ
 損害ヲ加ヘタルモノニシテ其損害ハ仮令ヒ贈與者
 等ノ實際獲得セル利益ニ超過スルモノト雖モ亦之
 ヲ償フヲ要スルモノトス

以上掲ケタル所ニ於テハ贈與者又ハ其相續人ヨリ
 贈與物件ニ係ル意欲上ノ讓渡ヲ爲ストテ想像セリ
 吾人ハ亦タ差押ニ係ル強令ノ讓渡ヲ想像スルトヲ
 得ヘシ即チ贈與ノ登記ノ未タ行ハレサル間ハ贈與
 者ノ權利者ハ其贈與シタル不動産ノ差押ヲ爲スト
 ヲ得而シテ其權利者ノ受ク可キ代價ノ辨濟アリタ

ルハハ乃チ贈與者ニ利益ヲ得セシメタルモノニシ
テ贈與者ノ義務ハ受贈者ノ財産ヲ以テ辨濟セラレ
タルモノナリ故ニ奪取ノ擔保ハ必ス之レヲ受贈者
ニ對シテ爲サ、ル可カラス

第六百五十七條 不動産物權ノ生存中ノ贈與ハ第三
百六十八條及ヒ次條ニ於テ定メタル規則ニ從ヒ登
記ニ附ス可キモノトス

其他有償名義ノ合意ニ關スル諸規則ハ贈與ニ通シ
テ適用ス可キモノトス但シ法律若シクハ贈與證書
上明記又ハ暗黙ニ別段ノ定メアラサル時ニ限ル可

シ

第六百五十八條 生存中ノ贈與、贈與シ若シクハ贈與
ヲ受クルノ能力或ル相續人ノ爲メ貯存ス可キ財産
ノ部分及ヒ贈與廢止ノ原由ニ關スル諸規則ハ本編
第二部第二章ノ包含財産ノ贈與ニ關スル事項ニ於
テ設定ス可シ

〔第六百五十九條第六百六十條ハ増加アルノ場合ニ豫
メ備ヘタルモノトス〕

註解

第六百五十七條 以上ノ説明ハ登記ノ方法ニ基因ス

而ノ本條ニ於テハ明瞭ニ生存中ノ贈與ヲ登記ニ服從セシメタリ故ニ嚴ニ論スレハ第三百六十七條ノ文面ノ全體アルヲ以テ充分ナル可シ然レトモ該條ノ地位ハ寧ロ有償契約ニ追想ヲ及サシムルノ性質アルヲ以テ茲ニ之レヲ明瞭ニ適用スルヲ優レリトスルカ如シ○他又生存中ノ贈與ハ佛國及ヒ其他ノ邦國ニ於ケルカ如ク久シク登記法ニ服從セル所ノ單[○]一[○]ノ所爲ナルヲ追想スル以上ハ該登記ノ事ヲ生存中ノ贈與ノ事項ニ記載セサルハ是レ或ハ稍ヤ奇怪ニ涉ルヲ無キヲ保セス

本條第二項ハ贈與ノ事項ニ於テ有償契約ニ關スル數多ノ規則ノ重複ヲ省クヲ目的トスルモノナリ故ニ一般ノ方法ヲ以テ有償契約ノ規則ニ送リヲ設ケタルモノトス

是ヲ以テ合意ノ効力ノ規則(第三百四十八條乃至第三百七十五條)合意ノ解釋ノ規則(第三百七十七條乃至第三百八十條)義務ノ數種ノ變體ニ關スル規則(第四百二十一條乃至第四百七十條)及ヒ義務消滅ノ規則(第四百七十一條乃至第五百八十五條)ハ一切贈與ニ適用ス可キヲ以テ原則ト爲セリ然レトモ若シ之

レカ爲メ法律上明瞭ナル變則ヲ設定シタルモハ其規則ヲ遵奉ス可キモノトス而シテ吾人ハ第二編第二部(第三百五十四條第三百六十二條ヲ見ヨ)ニ於テ其數多ノ變則ノ場合ニ遭遇セリ又双方ノ者ノ設ケタル特別規則ニ付テモ亦之レト異ナルヲナシ但シ公ケノ秩序又ハ善良ナル風儀ニ背反スルキハ此限ニ在ラス○贈與者自己ノ意欲ヲ以テ贈與ヲ廢止スルコトハ人之レヲ以テ公ケノ秩序ニ反スルモノト見做ス可シ蓋シ是レ法律ノ明瞭ニ禁止セル所ナリ又正條ニハ贈與ニ關スル契約ノ普通法ニ暗黙ノ變

則アル可キコトヲ認許セリ蓋シ其無償タル性質ハ以テ二三ノ差別ヲ惹起スルカ爲メニ足レリトス是ヲ以テ裁判所ハ執行ノ爲メノ恩惠期限ヲ附與スルコト付キ賣主ヨリハ贈與者ニ附贈スルヲ以テ一層容易ナリトス

第六百五十八條 本條ハ純粹ニ送リノコトヲ揭示スルモノニシテ彼ノ贈遺ノ事項ニ於ケル第六百三十八條ト類似スルモノナリ

正誤

五 丁 六行 末ハ未 八 丁 七行 齋ハ齋

十二 丁 五行 ナリノ下ニテ脱ス 十五 丁 六行 開ハ關

十五 丁 八行 ノ事ハ衍 二十八 丁 一行 馬ハ鳥

二十八 丁 七行 獲ハ護 二十九 丁 三行 「無主物」ノ下ニテ脱ス

三十四 丁 十行 魚貝ノ下ニテ脱ス 三十八 丁 三行 ヲハノ

五十七 丁 三行 スシハシテ 五十九 丁 十行 地ハ砂

六十 丁 四行 トスノ下ニテ脱ス 六十一 丁 九行 日ハ目

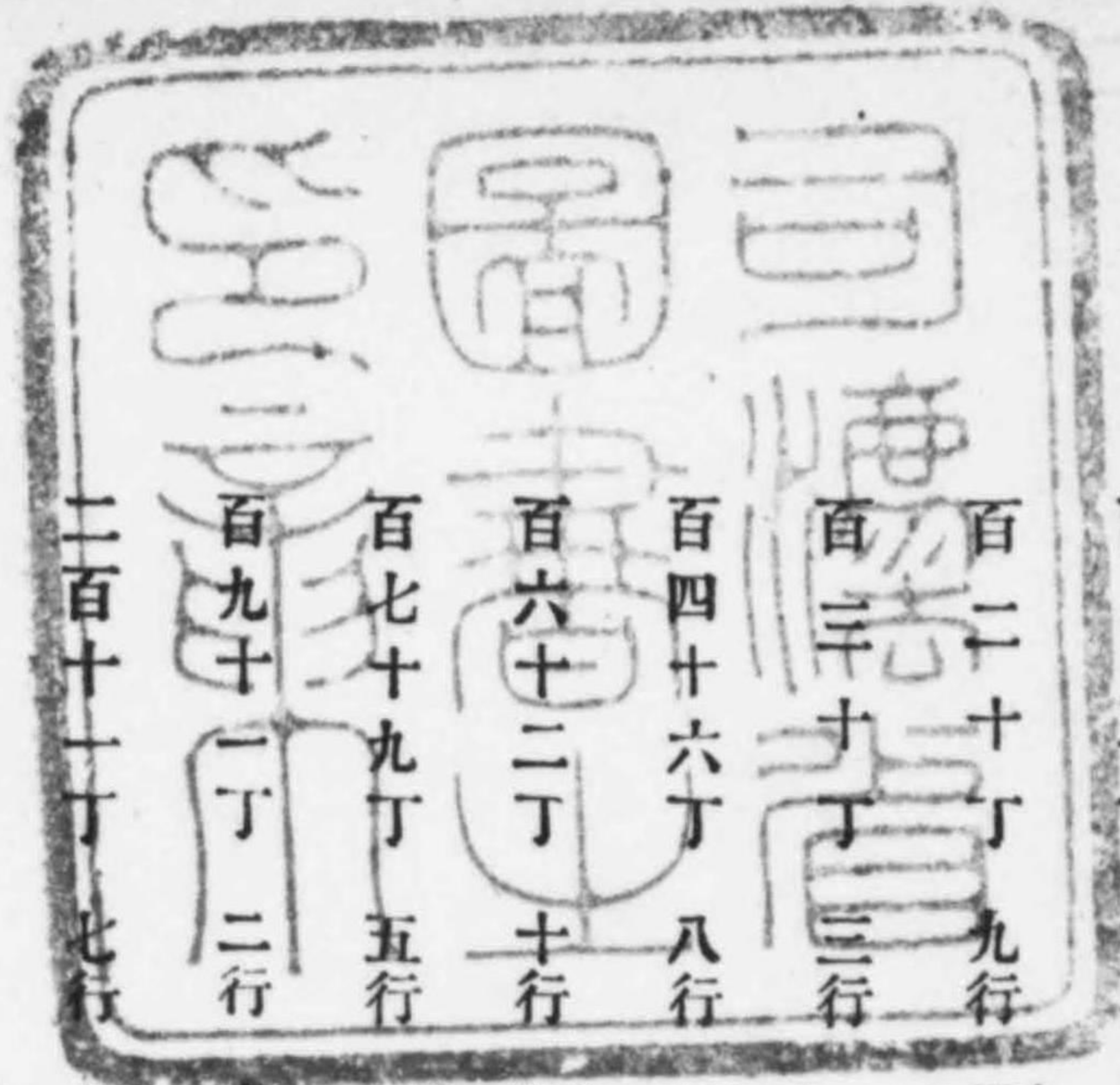
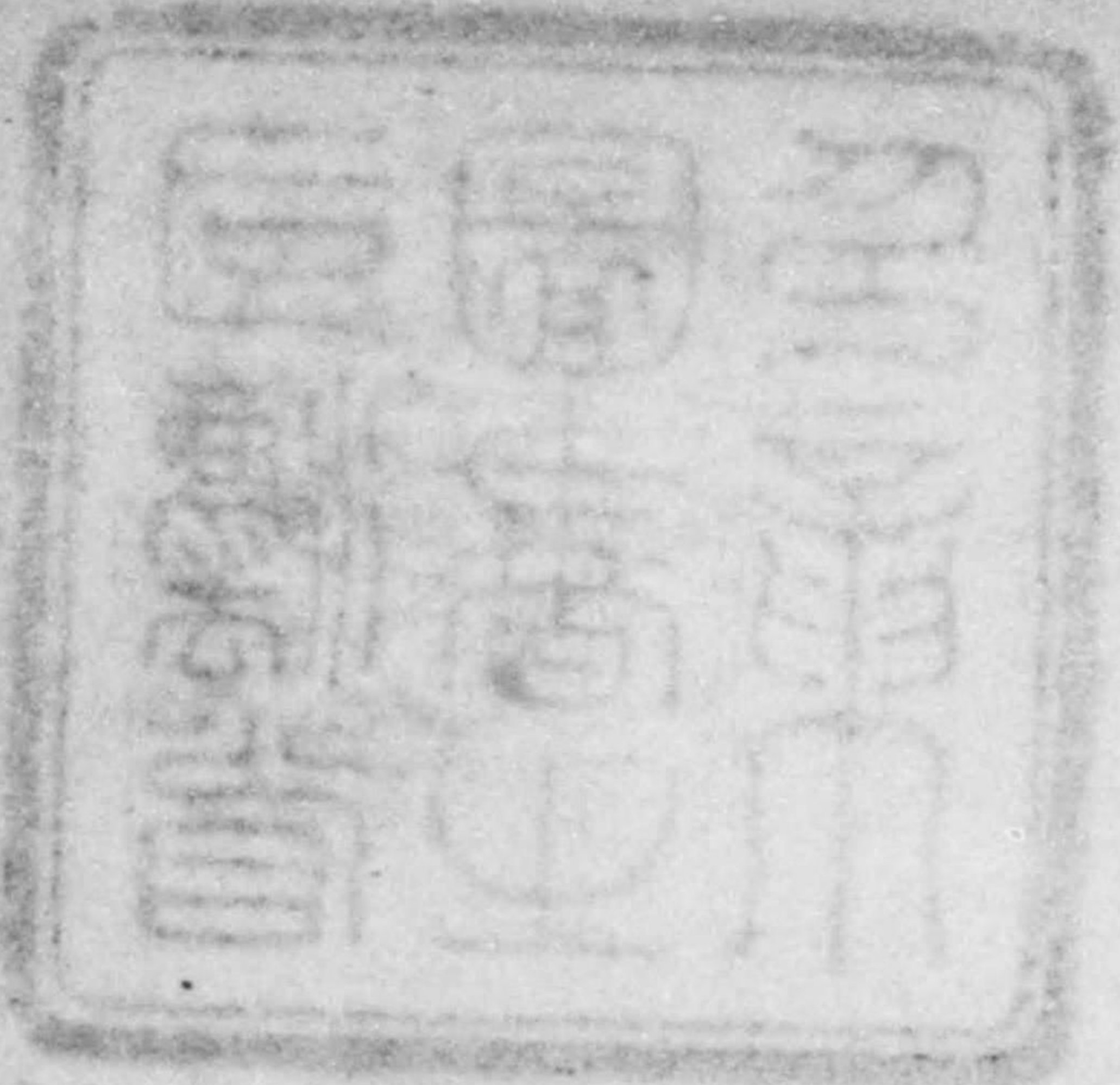
六十三 丁 八行 木ハ有 六十四 丁 七行 具ハ其

六十七 丁 十行 所得ノ下ニテ脱シ、ノ、下ハ衍 七十九 丁 一行 候ハ條

八十二丁 一行 集○合○ニ○圈○點○ヲ○脱○ス 八十五丁 六行 判○ハ○動○
 百五丁 十行 可○シ○ノ○下○ニ○テ○脱○ス 百七丁 五行 代○ハ○伐○
 百九丁 二行 收○獲○物○ノ○下○ニ○テ○脱○ス 百二十一丁 八行 レ○ハ○シ○
 百二十五丁 四行 互○ハ○互○ 百四十四丁 九行 水○流○ハ○流○水○
 百八十三丁 十行 ハ○ハ○ヤ○ 二百二十二丁 七行 併○合○ノ○下○ニ○テ○脱○ス
 二百二十九丁 六行 ヤ○ノ○下○ニ○テ○脱○ス 二百三十九丁 十行 所○有○權○ノ○下○ノ○ハ○チ○
 二百四十丁 二行 共○ハ○分○ 二百四十八丁 四行 最○物○ハ○最○初○
 二百四十六丁 一行 パ○ハ○ク○ 二百五十五丁 六行 層○ハ○屢○

正誤

六 丁 九行 菓○ハ○果○ 同 丁 十行 菓○ハ○果○
 七 丁 二行 菓○ハ○果○ 八 丁 三行 菓○ハ○果○
 十 丁 七行 上○ニ○ハ○上○ニ○テ○ 二十三丁 六行 リ○ハ○ル○
 三十四丁 十行 分○部○ハ○部○分○ 三十五丁 二行 分○部○ハ○部○分○
 四十二丁 八行 件○ノ○下○ニ○テ○脱○ス 五十七丁 五行 相○續○ニ○圈○點○ヲ○
 五十八丁 八行 理○ハ○理○ 六十五丁 一行 思○ハ○恩○ 脱○ス
 七十六丁 九行 式○ノ○下○ニ○テ○脱○ス 八十丁 三行 意○欲○ハ○遺○囑○
 八十三丁 二行 卽○チ○ハ○卽○チ○ 九十丁 七行 自○ハ○目○
 九十三丁 四行 云○フ○ノ○下○ニ○テ○脱○ス 九十四丁 九行 末○ハ○未○
 百五丁 六行 キ○ス○ノ○下○ニ○テ○脱○ス 百九丁 七行 セ○ハ○サ○



百十五丁 四行

父ハ文

百二十丁 四行

ノ下、ハ術

百二十丁 九行

贈遺ハ遺囑

百二十一丁 五行

スシハスヘシ

百三十一丁 三行

サノ上、ヲ脱シ
受ノ下囑ヲ脱ス

百三十二丁 一行

苦ハ若

百四十六丁 八行

贈遺者ハ遺囑者

百四十八丁 四行

管ハ常

百六十二丁 十行

於ハ就

百七十七丁 八行

古ハ苦

百七十九丁 五行

登ハ登

百八十丁 五行

遺ハ受

百九十一丁 二行

産ノハ産ヲ

百九十七丁 七行

受囑設ハ遺囑設

二百一十一丁 七行

土ハ術

二百三十六丁 七行

ノ事ハ術

二百五十五丁 六行

贈與者ヨリ以下別項

二百五十七丁 六行

或ノ下ハヲ脱ス

二百六十五丁 四行

附贈ハ附與

